

平成 19 年度 文部科学省委託 青少年の意欲向上・自立支援事業

NPO や地域をフィールドにした  
青少年のコミュニケーション力を育む体験活動に関する調査研究事業

# ‘NPOでつけるコミュニケーション力’ ファシリテーター体験セミナー 調査報告書

平成 20 年 3 月

‘NPOでつけるコミュニケーション力’  
ファシリテーター体験セミナー実行委員会

**特報!**

松戸×学生×ボランティア=

夏のボランティア体験講座

# Let's 体験 2007

いよいよ、  
**夏休み**

**Let's 体験!**

自分で選んだ団体で  
活動をするよ。

受付は6/1~7/13

**Start!**

まず、申し込み

サポートセンターに来て  
ください。ここから Let's 体  
験がはじまるよ。

定員：100名  
参加費：280円  
(ボランティア保険代)

次に、  
**オリエンテーション**

7/14(土)10:00~12:30

「Let's 体験!」する前に、ボラ  
ンティアってなんだろう?あ  
らためて考えてみよう。

**体験活動の場を決めよう**

13:30~15:30

受け入れ団体の話を聞いて、  
やりたい活動を見つけよう。

最後に、  
**ふいかえいの会**

8/25(土)10:00~12:00

それぞれの体験を話し合  
って、活動の成果をまと  
めよう。

※参加証がでるよ

**Goal!**

Let's 体験は、松戸市内の  
NPO・市民活動団体でボラ  
ンティア体験をするワカモノ  
向けのプログラムです。

申し込み  
お問い合わせは...

**主催**

まつど市民活動サポートセンター

〒271-0094 松戸市上矢切299-1

でんわ 047(365)5522

ファックス 047(365)5636

電子メール hai\_saposen@matsudo-sc.com

ホームページ <http://www.matsudo-sc.com>

開館日 月~土(9:00~21:00)、日曜日(9:00~17:00)

休館日 第1・3水曜日、年末年始

イラスト 青島奈美さん(高2)

協力 松戸市社会福祉協議会

<p>Fさん</p>	<p>&lt;アルトの会&gt;</p> <p>これまで Let's 体験はしていたが、参加する意欲はそんなになかった。アルトの会に参加した。アルトの会で小学生に算数を教える手伝いをした。もともと小山さんが前で講師をしているので、自分は教えるというより寄り添うかたちになった。二人うけもって、最初の子はあまりできないので「ここをこうやって、次をこうやって」というかたちで寄り添った。2 回目の子は基本はできているけれども、小 4 の子で問題を解く速さを気にするので雑になりケアレスミスが多い。(講義よりも)ちょっと先のことをやろうともし、その部分をいかにわかりやすく教えるかが難しかった。</p> <p>アルトの会は以前から参加していたが、今回はファシリテーター養成講座を受けたこと、14 日のオリエンテーションに参加した事もあって、いまこれをやっているからこう動こうというように考えて動くようになった。また、自分が寄り添っている子供達も 14 日のオリエンテーションを経験していることと、自分が Let's 体験という事業のプロセスを理解していることで、自分の立場を明確にできた。</p> <p>(体験した活動はオリエンテーションと同じ「引き出す」作業だが違いはあったか?)アルトの会は算数をやりたくて来た子なので、やりたくないとはならない。オリエンテーションの場合は「なんでこんなことやるの?」っていう子もいるから、やりたくないことをフォローしてやってもらうのがいいのかな。</p> <p>他の子どもと遊ぶたぐいの団体には参加していないが、アルトの会は子どもと近いところに大人がいる。大人/子どもという境界をあいまいにしている。あくまで子どもの自主性にまかせ。やりたくない子がいても強制はせず、いかにして子どもの自主性をそちにむけるかを考える。</p>
------------	--

## 目 次

1. 序 章 調査研究の枠組み	p.3
2. 第1章 Let's 体験!!の取り組み	p.7
3. 第2章 ファシリテーター体験セミナー調査概要	p.12
4. 第3章 ファシリテーター体験セミナー調査結果	p.15
5. 第4章 総合考察	p.29
6. 第5章 提案	p.34
7. 資料編	p.39

### 本文中で使用される用語について

以下の用語・略語については特に注釈のない限り、ここで示した意味で使用される

- ・ 受講者・・・ファシリテーター体験セミナーの受講者
- ・ 参加者・・・Let's 体験!!の参加者
- ・ サポートセンター・・・まつど市民活動サポートセンター
- ・ コーディネーター・・・まつど市民活動サポートセンターのコーディネーター

※コーディネーターについては、第5章のみ、上記の意と一般的な職制の意と両方使用している。



## 序章 調査研究の枠組み

### 1. 調査研究の背景

いま、青少年の「生きること」、「働くこと」に対する意欲の減退が社会的問題となっている。象徴的な言葉として「ニート」が挙げられるが、2007年度青少年白書によれば、「ニート」に近い概念である若年無業者について、年齢を15～34歳に限定し、非労働力人口のうち家事も通学もしていない者として集計すると、2006年では62万人存在している。また、第一生命経済研究所の2005年の調査では、ニートが2005年時点で約87万人、2025年には100万人に達すると予測している。

「ニート」問題はひとつの象徴であり、青少年全体について意欲・自立意識が地盤沈下を起こしている状況といえよう。それは、青少年ひとりひとりの意識・責任に帰すべき問題ではなく、社会構造の問題として捉えるべき問題である。青少年の意欲・自立意識における課題は、複合的に絡み合った原因が存在し、多面的なアプローチが必要とされる。

われわれはこの問題に対し、社会体験の不十分さに起因するコミュニケーション力の不足によって、青少年が他者との人間関係をうまく構築できないことが大きな要因ではないかと考えている。急激な経済発展と社会構造の変化に伴い、地域社会の青少年に対する受け皿機能は低下してきた。例として、千葉県松戸市は人口48万人近くの首都圏の典型的な住宅都市として発展する一方、流入人口増加の帰結として異世代コミュニティの形成が難しく、希薄な地域社会において、青少年が安心感を得たり、役割を見出したりする機会も少ないといえよう。

われわれは、同市における中学生以上を対象とした夏休みボランティア体験講座「Let's体験!!」の機能に着目した。NPO・市民活動の場面において、強制的な奉仕活動ではなく自発性に基づくボランティア活動で青少年が役割を持つことが、青少年にとって地域社会が再構築された新たな受け皿として機能すること、青少年のコミュニケーション力向上に寄与し、ひいては意欲向上・自立支援につながることを狙いとして、本調査研究事業に取り組んだ。

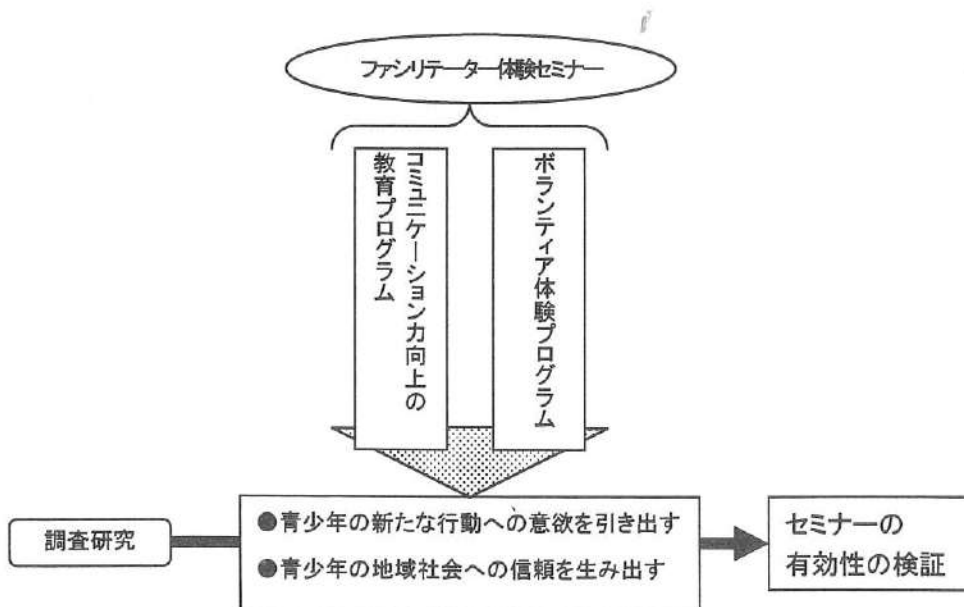
## 2. 調査研究の目的

上記課題の解決策として、コミュニケーション力向上のための教育プログラムと、その実践の場としてのNPO・市民活動団体でのボランティア体験プログラムを組み合わせた事業「ファシリテーター体験セミナー」を試行的に実施した（事業の詳細については第1章で述べる）。

この事業の目的は2つある。「何かをしたい」「一歩踏み出すきっかけが欲しい」と感じている若者を対象に、コミュニケーション力が必要とされる役割を与え、専門性を持つコーディネーターによるフォローアップを行いながら、その役割を全うさせることで、若者自身が達成感を持ち、新たな行動への意欲を引き出すこと。もうひとつは、地域の様々な課題解決に取り組むNPO・市民活動や、経験豊かな地域の人々が活動するボランティア活動への参加自体を通して、コミュニティへの関わりを持ち、多世代と交流する中から、青少年の地域社会への信頼を生み出すことである。

自らの意志で公共性のある社会貢献活動に取り組む人々の姿勢に触れ、団体の実践に参加し体験をすることは、自立した人間としての成長の支援となるはずである。さらに、若者に対する地域の教育力の再生を促せる可能性も本調査事業を通じて模索できると考えた。

本調査研究の目的は、この事業目的がどの程度達成されたかを明らかにし、「ファシリテーター体験セミナー」の有効性を検証することである。



### 3. 実行委員会

役職	氏名	所属
委員長	福留 強	聖徳大学生涯学習研究所 所長
副委員長	犬塚 裕雅	特定非営利活動法人 コミュニティ・コーディネーターズ・タンク 理事
委員	海老名 みさ子	特定非営利活動法人 外国人の子どものための勉強会 理事長
委員	大越 章正	千葉県教育庁東葛飾教育事務所 社会教育主事
委員	小熊 浩典	特定非営利活動法人 こばていー子ども参画イニシアティブ 理事長
委員	齊藤 ゆか	聖徳大学生涯教育文化学科 講師
委員	高瀬 義彰	松戸市教育委員会青少年会館 社会教育主事
委員	津久井 隆信	松戸市協働推進課
事務局	小山 淳子	特定非営利活動法人 コミュニティ・コーディネーターズ・タンク 副代表理事
事務局	太田黒 周	特定非営利活動法人 コミュニティ・コーディネーターズ・タンク

(50音順)

※特定非営利活動法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンクは、まつど市民活動サポートセンターの指定管理者であり（2007年～2010年）、同施設の管理運営を担う。事務局の小山・太田黒の両名は同施設のコーディネーターを務めている。



#### 4. 実行委員会・事業実施一覧

実施日	実施内容	実施場所
2007年 6月6日(水)	第1回実行委員会	まつど市民活動サポートセンター
6月23日(土)	第2回実行委員会	まつど市民活動サポートセンター
7月1日(日)	ファシリテーター養成講座 第1回	まつど市民活動サポートセンター
7月8日(日)	ファシリテーター養成講座 第2回	松戸市社会福祉協議会
7月14日(土)	Let's 体験!!2007 オリエンテーション	まつど市民活動サポートセンター
7月15日(日) ～8月31日(金)	Let's 体験!!2007 ボランティア体験	まつど市民活動サポートセンター
7月23日(月)	第3回実行委員会	聖徳大学 生涯学習社会貢献センター
8月22日(水)	第4回実行委員会	聖徳大学 生涯学習社会貢献センター
8月25日(土)	Let's 体験!!2007 ふりかえりの会	まつど市民活動サポートセンター
9月6日(木) ～7日(金)	受講者ヒアリング	松戸市民会館 まつど市民活動サポートセンター
9月26日(水)	第5回実行委員会	聖徳大学 生涯学習社会貢献センター
9月30日(日)	ファシリテーター体験セミナー ふりかえりの会	まつど市民活動サポートセンター
10月21日(日)	受け入れ団体意見交換会	女性センターゆうまつど
10月22日(月)	第6回実行委員会	聖徳大学 生涯学習社会貢献センター
11月22日(木)	第7回実行委員会	聖徳大学 生涯学習社会貢献センター
11月25日(日)	事業成果報告会 「ワカモノと地域のイイ関係！」	聖徳大学 生涯学習社会貢献センター
12月12日(水)	第8回実行委員会	聖徳大学 生涯学習社会貢献センター
2008年 1月30日(水)	第9回実行委員会	聖徳大学 生涯学習社会貢献センター
2月28日(木)	第10回実行委員会	聖徳大学 生涯学習社会貢献センター

## 第1章 Let's 体験!!の取り組み

本事業の着想は、まつど市民活動サポートセンターの事業「Let's 体験!!」の取り組みのなかから得たものである。本章では、Let's 体験!!の概要とこれまでの成果から、ファシリテーター体験セミナーを構想するまでの経緯を述べる。

### 1. Let's 体験!!の事業概要

Let's 体験!!は、若者向けのボランティア体験講座である。中学生以上の若者が、夏休みの間に松戸市内で活動するNPO・市民活動団体でボランティア体験をおこなう。2003年に第1回を実施し、本年度で5年目となる。

Let's 体験!!は、サポートセンターの次世代育成支援事業に位置付けられている。参加者が自分たちの住む地域で、役割をもったボランティア活動を体験することを通して、参加者の自我の形成、および地域社会への関心を深めることを目的としている。

#### 参加者から見た Let's 体験!!の流れ

申し込み	まつど市民活動サポートセンターに来所し、Let's 体験!!に申し込む。このとき、コーディネーターから各ボランティア・プログラムの説明を受ける。
オリエンテーション	ワークショップにより、自己表現の練習と自分が求めている体験について考える。
マッチングの会	オリエンテーションと同日に行われる。受け入れ団体と話し、活動先を決める。
ボランティア体験活動	それぞれが選んだ活動現場でボランティアを体験する。
ふりかえりの会	ワークショップにより、ボランティア体験をふりかえり、体験で得たものを内面化する。

Let's 体験!!は以下の4つの点において、特徴づけられる。

#### ①参加者の多様な関心からかかわることができる

中学生や高校生のボランティア体験というと福祉施設での体験活動が多い。じっさい福祉の分野ではたくさんのボランティアが活動をし、ボランティアを受け入れるノウハウも蓄積され、ボランティア活動への入り口として重要な分野であることはいうまでもない。だが、その反面、一般にボランティア体験とは福祉体験であるというイメージが強く、「地域課題に取り組むNPO・市民活動」という視点からボランティアを捉えた場合、やや間口が狭いともいえるだろう。

Let's 体験!!には、まちづくり、子育て、青少年育成、環境保全、国際交流、アートなど

さまざまな分野で活動をする団体（もちろん福祉の団体もある）がプログラムを提供しており、参加者はそれぞれの関心から NPO・市民活動を体験できるようになっている。

## ②参加者に自発的な参加を促す

「体験」とはいつても、あくまでボランティアなのだから、参加者の自発性・主体性を重視する。そのため、Let's 体験!!に参加するには、参加希望者自身がサポートセンターへ来所して申し込まなければならない。電話やファックスによる申し込みや、希望者の親や友達グループの代表による申し込みなどは一切受け付けない。松戸市内でも決して立地条件がいいとはいえサポートセンターに来なくてはならないのは、参加希望者にとって負担になり、躊躇させる要因になるかもしれない。しかし、そうしたハードルを飛び越えて参加の意思を示すことから、Let's 体験!!の目的のひとつである参加者の自我の形成がはじまると、サポートセンターでは考えている。

## ③自分がやりたいことを考える

参加希望者がサポートセンターに申し込みをしにくると、必ずコーディネーターが面談をおこなう。時間は希望者が一人できた場合、だいたい 30 分程度である。面談は、名前、学校、学年など、ひととおりの自己紹介を引き出すことから始まり、Let's 体験!!への参加動機、自分の自慢したいことなどをたずね、参加希望者の興味や関心を引き出していく。その後、その年のボランティア・プログラムの冊子を一緒にみながら、各団体のプログラムの内容をひとつひとつ説明する。

参加者の中には、申し込みに来た時点で、活動先（分野）を限定してしまっている者がいる。それにはきちんとした理由のある場合もあるが、単に先入観で決めてしまっている場合もある。コーディネーターによる面談の目的は、参加者が自身の興味・関心に気づき、本当にやりたいことは何かを考えてもらうことにある。実際、面談の結果、希望する活動先を変えたり、増やしたりする参加者は少なくない（ただし、活動先を決定するのは前述したマッチングの会においてである）。

## ④自分を表現する力と自分で考える力を身につける

Let's 体験!!では、ボランティア体験活動の前にオリエンテーション、活動後にはふりかえりの会がある。

オリエンテーションのねらいは、参加者が自己表現の練習をすること、ボランティアとは何かを考えることである。後者について説明すると、ボランティアについて自分なりのイメージをつかみ、自分がどんなことをしたいのかを考えることである。受け入れ団体の話を聞き、活動の約束をとりかわすマッチングの会や、実際の活動現場において、自分から積極的に動けるようにするための準備作業である。

一方、ふりかえりの会のねらいは、参加者それぞれが、ボランティア体験のなかで感じたこと、気づいたことをふりかえり、体験を内面化することにある。

オリエンテーションもふりかえりの会も、ともにワークショップの形式で行われ、自分

の気持ちをうまく言葉で表せない参加者も、絵や身体表現など、自分の得意な方法でそれぞれ自己表現ができるようになっていく。

以上、Let's 体験!!は、参加者が（コーディネーターの助けを得ながら）自ら考え、選び、行動する、彼らの主体性を重視した体験学習のプログラムであることがお分かりいただけたらと思う。今回実施したファシリテーター体験セミナーは、Let's 体験!!の4年間にわたる蓄積の中から生まれたことを、ここで繰り返し述べておきたい。

## 2. これまでに得た成果

Let's 体験!!のオリエンテーションとふりかえりの会では、各グループに1~2名ほどファシリテーターがつく。ファシリテーターの役割は、グループ内の話し合いの活性化、個人個人の作業の補助などである。ファシリテーターは、主に大学生の参加者を対象として、申し込み時に声をかけて集めている。

もともとはLet's 体験!!の参加者の増大に伴い、コーディネーターだけでオリエンテーションをまわしていくことが困難になってきたことからはじめたものではあった。しかし、この学生ファシリテーターの取り組みを2年ほど実施しているうちに、ある傾向が感じられるようになった。ファシリテーターとしてLet's 体験!!にかかわった学生の中に、態度の変化や、Let's 体験!!終了後も地域のNPO・市民活動への参加を継続的に続けるなどの例がみられたのである。

むろん、すべての学生に変化が見られるわけでもなく、個人差もあるが、ここで、典型的な3名の学生について、Let's 体験!!参加後の変化を例示してみよう。

### ①事例1 男・高校生

Let's 体験!!のオリエンテーションに来たときは非常に無口な少年であった。Let's 体験!!に参加し、「夏休み中、何もやることがないから」と子どもの居場所を開設しているボランティア団体に毎日通った。毎日活動をする中で、その団体の実施するプログラムにスタッフとしても関わる中で、自分の居場所を見出し、自分でもプログラム企画を立案したり、そこから他の団体の活動にも参加したりするようになる。

人と関わる中で福祉分野への興味を持ち、専門学校への進学を決める。

## ②事例2 男・大学生

大学では子どもと関わるボランティアサークルに所属していた。Let's 体験!!に来て、自分と同世代の若者が子どもの社会参画をすすめる NPO があることを知り、その団体の体験活動に参加。

Let's 体験!!以降も、同団体の小学生と一緒に遊ぶ活動に参加しつづけ、地域の中で自分の役割・やりがいを感じながら、中心的なスタッフとして関わるようになる。今ではその団体の理事も務め、さらに中心的に関わるようになった。

## ③事例3 男・大学生

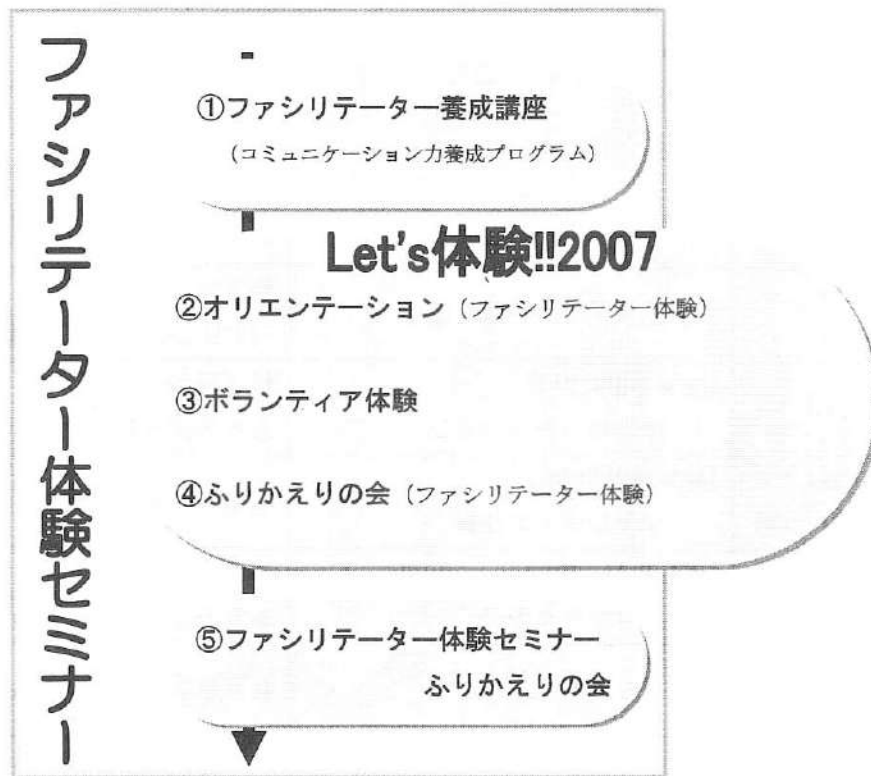
Let's 体験!!で、キャンプの活動（子ども会の子供達と障害を持った子ども達が一緒に参加する）にスタッフとして参加する。結果、活動に共鳴し、他大学の学生とともにグループをつくり、自ら主体的に参加するとともに、活動の輪を広げている。

## 3. ファシリテーター体験セミナーの構想

ファシリテーターとして Let's 体験!!に参加した学生に、なぜ前節のような変化が見られたのか。Let's 体験!!で 3 人を見守ってきたコーディネーターの話から、われわれは次のように考えた。

すなわち、オリエンテーションとふりかえりの会の場でファシリテーターの体験をすることが、彼らのコミュニケーション力を高め、体験学習の効果を増幅したのではないかということ。前節の 3 人ともが、サポートセンターにはじめて来たときはコミュニケーション下手なほうであったとコーディネーターは話している。Let's 体験!!の場合、初めての場でとまどっている参加者に対し、ファシリテーターが積極的なコミュニケーションをとることがワークショップを進める上で重要になってくる。このファシリテーター体験によって得た達成感が、彼らのコミュニケーション力に対する自信につながったのではないだろうか。さらにその自信が、「参加者の自我の形成」「地域社会への関心を深める」という目的をもつ Let's 体験!!の事業効果を、存分に引き出す結果となり、彼らの、Let's 体験!!後の意欲向上、積極性へとつながったのではないだろうか。

以上の考察を踏まえて、われわれは「'NPO でつけるコミュニケーション力' ファシリテーター体験セミナー」を構想した。Let's 体験!!の前にコミュニケーション力向上のためのプログラム（Let's 体験!!に参加する前提のため「ファシリテーター養成講座」とした）を用意し、このプログラムの受講後、ファシリテーターとして Let's 体験!!に参加するというものである。



この構想の特徴は次の4点にある。

- ① 主体的に学ぶために個々のコミュニケーションを重視したワークショップを取り入れ、学びの現場で実践し、成果を持ち帰りふりかえりを行うという三つのプロセスを織り込んだ教育と参加体験を組み合わせたプログラムであること。
- ② 地域社会との密接なつながりのある NPO 活動やボランティアに参加する (Let's 体験!!) ことで、この企画終了後も、参加者がコミュニティと継続した関わりをもてる企画であること。
- ③ 青少年の自立への支援と地域の教育力との再生を効果的につなぐ相互循環型事業であること。
- ④ 公設の中間支援施設 (まつど市民活動サポートセンター) がハブとなり、コーディネーション機能を担うことにより、地域と行政が実質的に一体となって、青少年の自立支援を行うことの効果を検証できること。

以下の章では、本事業を実施した結果を分析、考察する。

## 第2章 ファシリテーター体験セミナー調査概要

### 1. 調査方法

#### 1-1. データの収集

	実施日	実施内容	収集したデータ
①	7月1日(日) 7月8日(日)	ファシリテーター養成講座	終了後のアンケート (1日18部、8日13部)
②	7月14日(土)	Let's 体験!!2007 オリエンテーション	終了後の ふりかえり記録(6名)
③	7月15日(日) ～8月31日(金)	Let's 体験!!2007 ボランティア体験	なし
④	8月25日(土)	Let's 体験!!2007 ふりかえりの会	終了後の ふりかえり記録(3名)
⑤	9月6日(木) ～7日(金)	受講者ヒアリング	ヒアリング記録(8名)
⑥	9月中	受講者レポート	レポート(2名)
⑦	9月30日(日)	ファシリテーター体験セミナー ふりかえりの会	ワークショップ記録 (5名)

※③の Let's 体験!!ボランティア体験では、受講者の活動時期・場所が分散していたため、活動現場に赴いてのデータ収集はおこなっていない。そのかわりに、⑤ヒアリング、⑦ファシリテーター体験セミナーふりかえりの会において、ボランティア体験について話してもらった。また、受講者を受け入れた団体からも、当日のプログラムと受講者の様子を(覚えている範囲で)提出してもらった。

#### 1-2. データの分析

本事業は、セミナーの各プログラムの実施過程で得られた受講者の意見や感想を対象とした定性的な調査研究である。1-1における⑤受講者ヒアリングと⑥受講者レポートは、当初の予定にはなかったが、実行委員会で検討し付け加えた。

収集したデータのうち、①ファシリテーター養成講座のアンケートは無記名で後に次節で述べる調査対象者和其他の受講者の区別がつかないため、また受講者レポートは提出人数が少なかったため、分析の対象からは除外し、巻末資料への掲載にとどめた。

なお、定性的な調査研究では調査者の関心を明示する必要があるが、それについては序章および第1章においてすでに述べたので、ここでは繰り返さない。

## 2. 受講者の概要

### 2-1. 受講者の募集

受講者は、6月の中旬よりちらし、コーディネーターの知人の紹介、サポートセンターに来所した相談者の勧誘等の手段により集めた。対象は主に大学生、20代の社会人としたが、高校生でも受講を希望するものは受け入れた。事業実施決定から養成講座第1回までの期間が非常に短く、募集には苦勞したが、それでも20名が応募した。

### 2-2. 受講者の属性

受講者の属性および各プログラムへの参加・調査への協力状況を下記の表に示す。

※下の番号は前節 1-1 の表番号に対応。

No	性別	所属	学年	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	男	高校	2	○	○	○	○	○		○
2	男	高校	3	○						
3	女	高校	3	○	○					
4	女	高校	3	○	○	○	○	○		○
5	女	高校	3	◎	○	○	○	○		○
6	男	専門学校	2	◎	○		○	○		
7	男	大学	1	◎	○	○	○	○	○	
8	男	大学	1	○						
9	男	大学	2	◎						
10	女	大学	3	◎	○	○	○	○		
11	男	大学	4	◎	○	○	○			
12	男	大学	4	◎						
13	男	大学	4	○						
14	男	大学	4	○	○	○	○	○		○
15	女	大学	4	◎						
16	男	大学院	2	○	○			○	○	
17	男	社会人		○	○					
18	女	社会人		◎						
19	女	社会人		○						
20	女	社会人		◎	○		○			○

※①の◎は2日間とも出席した者、○は1日のみ出席した者を表す。

※今回の調査では、プログラムへの出席率および調査への協力の度合いから、No. 1,4,5,7,10,14の6名を調査対象者とした。



### 2-3. 調査対象者の受講動機

ヒアリングによって得られた調査対象者の受講動機を以下にまとめる。

#### No.1 Aさん（男性・高校2年生）

実行委員の一人に勧められて参加。

#### No.4 Bさん（女性・高校3年生）

Let's 体験!!の申し込みにセンターに来所した際、コーディネーターに本事業を紹介され、参加。中学・高1のとき、クラスや学年でリーダーをやった経験がある。高校2・3年生の時は、何もしなかったので、キャリアアップしようと思った。

#### No.5 Cさん（女性・高校3年生）

実行委員の一人に勧められて参加。

#### No.7 Dさん（男性・大学1年生）

大学の先生から進められて参加。昔から人と話すのが苦手で、コミュニケーション能力を鍛えられるということに関心があった。コミュニケーション能力セミナーが、何をやるのかについても興味があった。

#### No.10 Eさん（女性・大学3年生）

大学1年生のときにLet's 体験!!に参加した経験がある。本事業は、ボランティア活動先について調べていたときに、まつど市民活動サポートセンターのホームページで知った。他の機関でファシリテーター研修を受けた経験があり、もう少しファシリテーターの研修をうけたかった。また、大学のサークルなどでも話し合いがうまくいかないという実感もあった。

#### No.14 Fさん（男性・大学4年生）

ファシリテーターについて、言葉は知っていたが、具体的には知らなかったので興味があった。母親が市民活動をしており、ファシリテーターやコーディネーターという言葉が家で使っていたので、その影響もある。ファシリテーターとは、話を聞いているかぎりでは、進行役・導き役であり、そういった話を聞いたり話し合ったりすることは嫌いではなかった。また、コミュニケーションはあまり得意ではないので、就職活動の面接で少しでも役に立てばと思った。

## 第3章 ファシリテーター体験セミナー調査結果

### 1. ファシリテーター養成講座

#### 1-1. 実施概要

日時：7月1日・8日（日）10：00～17：00

受講者数：20名（うち8名が両日とも受講）

場所：まつど市民活動サポートセンター大会議室（1日）

松戸市社会福祉協議会第1・第2ボランティア室（8日）

講師：庄嶋 孝広（市民社会パートナーズ 代表）

#### 1-2. ねらい

- ・Let's 体験!!2007 のワークショップ（オリエンテーションとふりかえりの会）、ボランティア体験において必要となる基本的なコミュニケーション力とファシリテーション力を身につけさせる。
- ・Let's 体験!!2007 のオリエンテーションのアイスブレイク・プログラムを作成し、受講者のセミナーへの参加意識を高める。

#### 1-3. プログラム内容

7月1日は、ジェスチャーを用いた自己紹介などゲームのかたちでコミュニケーションとファシリテーションの基礎を学んだ。さらに、グループにわかれ各自の「人に助けられた体験」をもちよってボランティアについての寸劇づくりを通し、グループでの話し合いの進行、合意形成の方法や話の書き取りなどを体験した。

7月8日は、1日の寸劇づくりの続き。その後、ファシリテーターの体験として、Let's 体験!!オリエンテーションのアイスブレイク・プログラムをグループにわかれて考え、各グループのプログラム案をもちより、互いに評価しながら、最終的なプログラムを作成した。

日時・テーマ	各プログラム	内容
7/1 (日) ファシリテーターの技術を学ぼう!	コミュニケーションとファシリテーションを知るゲーム	ジェスチャーで自己紹介、相槌を打たないで他人の話聞く、お題を設定してグループのメンバーから意見を引き出す等、ゲームの要素を取り入れたプログラムを通して、日常のコミュニケーションを見直し、ファシリテーターに必要なコミュニケーション力を体験的に知る。
	「ボランティアって何だろう？」をテーマにファシリテーター体験	グループにわかれ、受講者自身のボランティアについてのイメージや体験から寸劇を作成・上演する。その話し合いの過程で、書き取りや合意形成などのファシリテーション・スキルを実践する。
7/8 (日) ワークショップをデザインしよう!	Let's 体験!!2007 のオリエンテーションのプログラムをつくる	まつど市民活動サポートセンターからオリエンテーションの概要を聞いた後、グループにわかれてそれぞれひとつプログラムをつくる。グループごとにプログラムを発表した後、互いに評価しあいながら、ひとつのプログラムに練り上げていった。

#### 1-4. 結果

受講者は、2日間の講座を通して、コミュニケーションのしくみ、コミュニケーションをうまく成立させるポイントを学ぶことができた。

##### ①7月1日 ファシリテーターの技術を学ぼう!

(講座で印象に残っているのは) あいづちをうつゲーム。単純にうなずかれないのがこんなに辛いとはと感じた。

ヒアリング時に講座で印象に残っていることを尋ねたときの受講者の感想である。「相槌をうつ」や「初対面の人との共通点を見つける」などの行為は、普段あまり意識することがない。そうした行為をゲームとして意識的に体験するなかで、何気ない行為がコミュニケーションの場で果たす重要性・有効性に気がついた。

これもヒアリングから得られた発言だが、

初対面の人同士だったので、意見を引き出すのが難しかった。

自分は一度こうだときめたらなかなか他の考え方ができないので、いろいろな意見がでてきて「なるほど」と思った。

ファシリテーターは、自分から笑顔で雰囲気づくりをするのが大切だと思った。

講座内の実践として実施した寸劇づくり、アイスブレイク・プログラムづくりを通して行ったファシリテーションについては、難しさを感じたようだ。だが、「いろいろな意見」や「笑顔で雰囲気づくり」など、1日目の講座で学んだことを意識しながらファシリテーションをおこなおうとした姿勢がうかがえる。

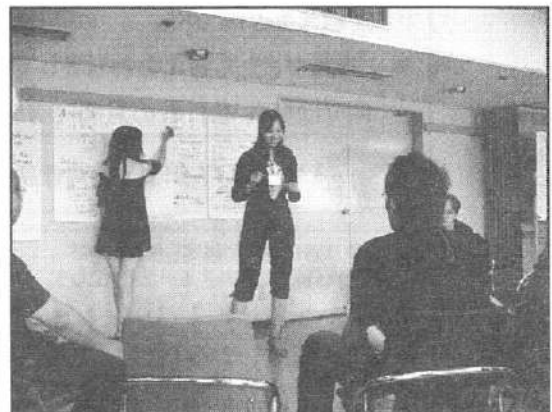
## ②7月8日 ワークショップのデザインをしよう！

Let's 体験!!2007 オリエンテーションのアイスブレイクのプログラム作成にあたっては、まつど市民活動サポートセンターのコーディネーターにより以下のオーダーがあった。すなわち、アイスブレイクを実施することで、

- ・ 100名を超すと予想される参加者を10人程度のグループにわけること
- ・ その際、なるべく初対面同士の参加者でグループをつくるようにすること
- ・ 本番のワークショップへ入る前に、グループ内でなるべくコミュニケーションをはかり、参加者をリラックスさせること

以上を踏まえて、受講者が作成したアイスブレイク・プログラムを次ページに示す。

プログラムは、①参加者人数の把握・適正なグループ数の推測→②グループの編成→③グループ内での交流の3ステップから構成されている。まつど市民活動サポートセンターのオーダーはきちんと反映しており、さらに初対面同士の参加者が徐々に場に慣れるよう、各ステップで参加者同士がコミュニケーションをとる工夫がなされている。



ファシリテーター養成講座の様子

STEP ①

大きな拍手 所要時間 4分

- ファシリテーターが「大きな拍手」といったら参加者は1回手をたたく。
- 次にファシリテーターが「それ」といったら2回手をたたく。
- 以下、「それ」の掛け声のたびに1回ずつ手を叩く回数を増やす。
- ファシリテーターが「ストップ」といったら直前に手をたたいた分の人数でグループをつくる(直前に5回たたいたら5人のグループをつくる)。

**目的** 体を動かしてリラックスする。参加者の大体の人数と適当なグループの数を把握する。  
※このグループ編成では知り合い同士で固まることが予想されるため、STEP②で知らない人同士によるグループを編成する。

STEP ②

バーステアライン 所要時間 4分

- 大きな拍手で編成したグループで整列
- グループ内の手の大きさ順で並び替え(練習)
- 誕生日順で並び替え
- 現在のグループ編成を横から区切り新しいグループを編成(※図1)

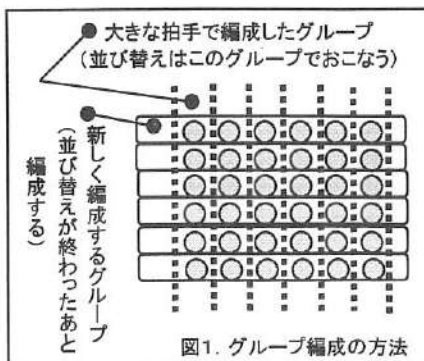
**目的** 参加者同士でコミュニケーションをとる。大きな拍手で分かれたグループから新しいグループへ再編成する。

STEP ③

県名いくつかけるかな 所要時間 7分 作業 4分・答え合わせと報告 3分

- 各グループに白地図とサインペン一本を配布。
- サインペンを回しながら白地図に一人ひとつずつ県名を書き込んでいく(時間が来るまで繰り返す。ペンを持っている人がわからない場合、他の人が教えるのはOK)。
- 時間がきたら答えあわせをしてグループの結果を報告(グループごとの発表ではなく、進行者の質問「〇個以上書けたグループは？」に挙手で答える)

**目的** 知らない人同士で共同作業をすることによって仲間意識をつくる。



## 2. Let's 体験!!2007 オリエンテーション

### 2-1. 実施概要

日時：7月14日（土）10：00～12：30

参加者数：151名 セミナー受講者：12名

場所：まつど市民活動サポートセンター多目的ホール

総合ファシリテーター：菅 博嗣（有限会社あいランドスケープ研究所 代表）

### 2-2. ねらい

- ・ファシリテーター養成講座で学んだスキルを実践させる。


### 2-3. プログラム内容

オリエンテーションの目的は2つ。参加者が自己表現ワークショップを通して自分のことを相手に伝える力を身につけること。また、自分がどんな体験をしたいかを内省して、午後に用意されているマッチングの会（団体とのボランティア活動の約束を取り交わす）、そして実際の活動への心の準備をすることである。

受講者の役割は、各グループのファシリテーターとして、総合ファシリテーターの指示を参加者に伝え、グループ内での話し合い、作業がスムーズにすすむよう進行することである。

	各プログラム	内容
1	アイスブレイク	(1) 大きな拍手 (2) バースデーライン（「手の大きさ比べ」で練習） (3) 県名いくつかけるかな ※ 部は時間の都合により未実施。
2	私を表現！出会いに向けて、「私って・・・どんな人？」	A4の白紙（色紙）を自由に使って自分を表現する。
3	聞くことも自己表現 「ひとつ伺ってもいいですか？」	グループ内で自己紹介し、聞き手は発表者へ1つ質問する。
4	絵日記で伝えます！ こんな体験したいんです。	自分がボランティアをしているところを想像し、絵日記を作成する。 グループ内でまわし読みし、両隣の人の日記の良いところを付箋に書いて渡す。さらにグループ内でもっとも感動した絵日記へコメントを書いた付箋を貼りグループの「ピカイチ絵日記」を選出する。

## 2-4. 結果

受講者の作成したアイスブレイク・プログラムは、「(1)大きな拍手」に時間がかかり、進行をつとめていたコーディネーターの判断により、部分を省略した。

オリエンテーション終了後に1時間程度の反省会をおこない、各自の実践の結果や感想を話しあった。

思ったより場がしらけてしまった。場の空気を暖めるのがむずかしい。

グループ発表のとき、いまいち盛り上げることがうまくいかなかった。

絵日記が書けなくて困っている子をサポートしたが、うまくいったかどうか・・・。

(絵日記を)書けない人のフォローが難しく、実際自分が(参加者の立場で)書くように言われてもきつい。

なかなか思うようにファシリテーションができなかったことがうかがえる。特にグループ内の雰囲気明るくしたり、盛り上げることができなかったという意見が多かった。しかし、そうした状況でも「相槌をうつ」、「笑顔でいる」、「雰囲気づくり」など養成講座で学んだことを実践し、試行錯誤しながら役割を達成しようとしていたことが、以下の発言からわかる。ヒアリング時にオリエンテーションのときに気づけたことを尋ねたときの回答である。

ファシリテーターとして、話を均等にふることに、参加者が話しやすい質問をすることをこころがけた。うなずいて聞くとか、笑顔でいるとか、基本的なことはちゃんとやろうと思った。

絵を描くときに、どう言うか。自分が描くのに四苦八苦した。やりながら考えてると「あー、こんな絵はやばいなー」って思って、でも参加者もそう感じてるはずなので、それを恥を捨てて見せることで、引き出そうとした。

まず、自分は笑顔で話しかける。相手に接しやすいように、なるべく笑顔。

恥ずかしがらずにみんなが意見をだしやすい雰囲気になるよう笑顔でいるようがんばった。



オリエンテーションの様子

### 3. Let's 体験!!2007 ボランティア体験活動

Let's 体験!!2007 のオリエンテーションとふりかえりの会では、受講者は普通の参加者とは違い、ファシリテーターという立場からかかわるが、このボランティア体験活動では、他の参加者と同じ立場でボランティア体験をおこなう。

#### 3-1. 実施概要

日時：7月15日（日）より8月31日（金）のあいだ

場所：各活動現場

#### 3-2. ねらい

- ・体験を通して、NPO／市民活動への興味・関心を引き出す。
- ・体験を通して地域や自身への課題意識とそれを解決するための行動力を養成する。
- ・地域で活動しているNPO／市民活動団体での多彩な活動に参加し、実社会とのかかわり方を考えるきっかけをつくる。



### 3-3. 体験したボランティア・プログラム

	受け入れ団体	プログラム内容
1	松戸市立北小金保育所	3・4・5才児クラスに入り、子どもたちと遊ぶ、職員とともにプールの清掃などをする。
2	NPO 法人 スマイルクラブ	運動が苦手な子や自閉症、知的障害の子どもたちのための運動教室の手伝いをする。
3	社会福祉法人 馬橋ケアハウスな でしこ/デイサービスなでしこ	利用者の話し相手になる、入浴後のドライヤーかけなどをする。
4	松戸市立北小金保育所	1・2才児クラスに入り、子どもたちと遊ぶ、職員とともにプールの清掃などをする。
5	河南環境美化の会	公園の花壇整備の予定だったが雨により中止。会のミーティングに参加。
6	緑のネットワーク・まつど	森で竹の除伐（竹を伐採し、枝を払い、片付ける）作業をする。
7	NPO 法人こばていー子ども参画 イニシアティブ	公園で小学生と遊ぶ。ゲームリーダーとして、公園でゲームの説明などをする。
8	ぽっかぽかの会	車イスの子どもたちとカラーリング（カーリングの室内フローリング版）をする。
9	10代の子どもの居場所をつくる アルトの会	小学生の学習サポート教室で、小学生に算数を教える手伝いをする。

### 3-4. 結果

ボランティアをするにあたって、最初は、異集団へはいることの困惑や、自分の役割がつかめず困った受講者もいた。（以下、この節の受講者の発言はヒアリングから得たもの）

最初はやっぱりなじめない。自分以外は知り合いと考えると、まったく知らない人たちが集まったところにいるので。

初めてだったのと、自分が（活動の）内容を知らないので、全然話には入れなかった。

そうした状況のなかで、団体の人とコミュニケーションをとることで自分の役割を明確にしようとした。また、対人活動の場合は、コミュニケーションの取り方（相槌をうつなど）を意識することで、相手とのつきあい方を考えながら活動をしていたことがうかがえる。

いまこれをやってるからこう動こうというように考えて動くようになった。……自分が Let' s 体験!!という事業のプロセスを理解していることで、自分の立場を明確にできた。

なるべく子どもと同じ目線になるようにひざ立ちとかをした。

デイサービスは、会話が主体になって、ボギャブラリーが少ないことを感じた。打ち解ければ、話ができた。会話をつなぐ技術、あいづちが必要。無意識のうちに使っていた。

この点については、受け入れ団体からも報告されている。

(受講者は) すごく子どもと一緒に走って追いかけていたり、子どもと本気で遊んでいた印象。しっぽとり (2 チームに分かれて、ズボンなどの後ろに色別のハチマキを入れて、しっぽに見立て、違う色の子のしっぽを取るゲーム) で思いっきりやりあっていて、子ども (小学生) の側も本気で遊んでいた。

車いすの方 (20 才・女性) とペアを組んでゲームに参加してもらいました。初めての参加でしたが、スムーズにペアの方と打ちとけ、さりげなく相手に気配りをしながら、楽しそうにゲームに参加していました。自然な感じでペアの方と接し、(受講者自身も) 楽しそうに参加してくれたので、こちらも特別気を使うことなくうれしく思いました。準備・片付けもそつなく手をかしてくれました。

全体的に明るく子どもに接してくれていたことが印象に残っています。自閉症、ADHD、などいろいろな特徴のある子ども達に初めはとまどっていたようですが、声をかけてくれる子どもと話をしながら少しうちとけてきたようです。

とても一生懸命、利用者の方とコミュニケーションをとっていました。レクリエーションの時間は利用者さんと一緒に手芸を行いました。会話もはずみ、利用者さんもとても楽しそうでした。

一生懸命な意欲がみえ、また、利用者と多くコミュニケーションをとってもらえたのでよかったと思います

また、ボランティア活動をした結果、身近なところに地域課題があり、それに取り組む人々がいるのを知るとともに、他のボランティア活動に対する興味が生じたことがわかる。

身近なところにボランティア団体や障害をもった子がいることに気づいた。

どういうボランティアを自分の地域でしてるんだろう？と関心をもった。

（森林保全の活動は）森を守るだけではなく、周り、そこに住んでいる人のことも考えないと、と知った。

松戸市にこれだけの団体があって、いろいろな活動があることを知った。こぱていはちみつ選挙には参加してみたかった。障害、夜中（夜間中学校）、いじめなどにも興味を持った。

自分の足りないところを尋ねると、コミュニケーションに関連するものがあげられたのは興味深い。

いろんな年齢の人に対応したい。話のストックが大事。高齢者の方に接するボランティアを学びたい。もっと、視野が広がって、リスク・施設に目を配れるようになりたい。

けっこう受身だと思った。指令があつて遂行するタイプなので、指示を待つのが多かった。



ボランティア体験の様子（NPO 法人こぱていー子ども参画イニシアティブ）

## 4. Let's 体験!!2007 ふりかえりの会

### 4-1. 実施概要

日時：8月25日（土）10：00～12：00

参加者数：42名 セミナー受講者：8名

場所：まつど市民活動サポートセンター多目的ホール

総合ファシリテーター：太田黒 周（まつど市民活動サポートセンター コーディネーター）

### 4-2. ねらい

- ・オリエンテーションと同じく、ファシリテーションを実践させる。

### 4-3. プログラム内容

オリエンテーション同様、10名弱のグループにわかれて行った。

ふりかえりの会の趣旨は、参加者がボランティア活動中に知ったこと、感じたことをふりかえり、体験を深めることが目的。受講者の役割は、オリエンテーション同様、各グループのファシリテーターとして、総合ファシリテーターの指示を参加者に伝え、グループ内での話し合い、作業がスムーズにすすむよう進行することである。

	各プログラム	内容
1	こんな体験してきたよ！	各自のボランティア体験を話し合う。
2	この体験を伝えるとしたら ・・・だれ？	ボランティアの体験を伝えるとしたら、誰に伝えるか。理由もふくめて考える。
3	絵葉書をつくろう！	上記で考えた相手にむけて絵葉書を作成。
4	グループに名前をつけよう！	みんなの絵葉書を読んでグループに名前をつける。

### 4-4. 結果

終了後にオリエンテーションと同じく、反省会をおこなったが、各グループともスムーズに進行ができたようだった。以下は、ヒアリング時にオリエンテーションと対比的に語られたふりかえりの会の様子である。

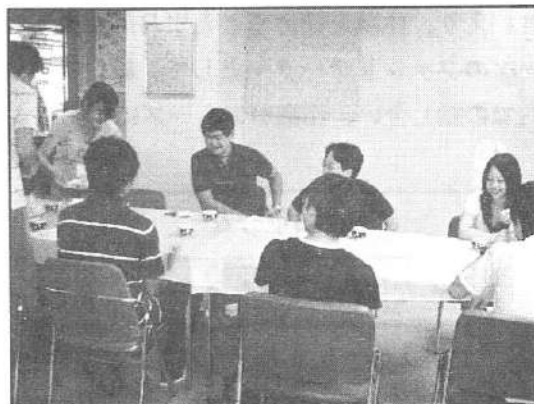
オリエンテーションのときは作業しながらにも言えなかったけど、ふりかえりの会のときは参加者が描いてる途中の絵をみて感想をはさむとかのフォローができた。

(参加者の一人から話を) 引き出していけば、全体の中で広がった感じ。

オリエンテーションを経た二度目の体験であり、勝手に分かっていたことが大きいと思われる。また、グループの中には、それぞれ体験した活動は違うものの、ボランティア体験という共通の話題があり、話を引き出すのが比較的容易であったのではないかと考えられる。

しかし、作業と作業のあいだの間をもたせられなかったなど新たな課題にも気づいた。

14日(オリエンテーション)は1対1のフォローだったが、25日(ふりかえりの会)は全体に対してのフォローで別のむつかしさがあつた。できていれば注意深くみることもないと思うが、グループのなかに間ができるとそのフォローがむずかしい。やっぱり俺はカタイなと思った。



Let's 体験!!2007 ふりかえりの会 (左)、  
終了後のファシリテーターふりかえり (右) の様子

## 5. ファシリテーター体験セミナーふりかえりの会

### 5-1.実施概要

日時：9月30日（日）13:30～15:30

セミナー受講者：5名

場所：まつど市民活動サポートセンター第2会議室

### 5-2.ねらい

ボランティア体験をふりかえるなかから、地域社会にとってNPO・市民活動がどのような意味をもつかを考える。

### 5-3.プログラム内容

インタビューと発言の書き取りを行い、ファシリテーションのスキルをもう一度実践する場とした。

	各プログラム	内容
1	インタビュー	2人一組になり、相手のボランティア体験をインタビューし合う。その際、質問は3つまでとし、質問内容は受講者自身で考えた。
2	NPO・市民活動を考える①	付箋紙に、「NPO・市民活動をする人たちはどのように見えたか」を書いて発表。
3	NPO・市民活動を考える②	「なぜNPO・市民活動をする人たちは活動をしているのだろうか」を考え口頭で発表。発表内容は、他の受講者が壁に貼った模造紙に書きとった。全員が発表した後で、お互いの考えについて質問をしあった。

### 5-4.結果

NPO・市民活動について他の人の考えを聞き、意見交換を通して、地域社会におけるNPO・市民活動の意義についての認識が自分なりに深まったと考えられる。

（団体の人たちは）ボランティア団体をやっているうちに、「そうしなければならぬ」というような義務感が生まれてきたのではないか。

障害を持っている子だからこそ、いけないことをしたら（団体の人は）ちゃんと怒っていた。

子どもが好きという思いもあると思うが、実はもっと深いことを考えているんじゃないかと思う。少子高齢化や子どもが住みやすい国ということについて考えた時に、国の将来のために子どもがたくさんいたほうがいいとか、そこまで考えているんじゃないか。

## 第4章 総合考察

前章では、セミナーの各プログラムの実施結果を個別に示した。それらを踏まえ、本章では、序章の「2. 調査研究の目的」で述べた、コミュニケーション力の養成とその実践の場を提供することで、若者の人間関係の構築に対する自信を与え、行動意欲を引き出すこと、また、NPO・市民活動団体へのボランティア体験によって、若者の地域社会への信頼を生み出すことについて考察を行う。

### 1. 「役割」と「コミュニケーション」が相互に影響を与える

本事業では、受講者がファシリテーターという役割を学び、実践するというプログラムを受けることによって、コミュニケーション力の向上を図った。その結果、「役割」と「コミュニケーション」の間で互いの行為を促進するような関係がみられた。

#### 1-1. 役割意識がコミュニケーションを促す

ヒアリングのとき、オリエンテーションではじめてファシリテーターを体験したときの心境を、受講者はこうふりかえている。

ファシリテーターとして、話を均等にふることで、参加者が話しやすい質問をすることをこころがけた。うなずいて聞くとか、笑顔でいるとか、基本的なことはちゃんとやろうと思った。「聞く」ことについてはちゃんとできたと思う。ただ、ひととおり、みんなが話し終わったあとの場つなぎはなにもできずつらかった。

一応ファシリテーターとして各グループのリーダー的役割ではいった。参加者は中高生が中心でうまくフォローができればいいと思ったが、不安のほうが大きかった。やってみると二人くらい（絵日記を）書いてくれない子がいて、その子達につきっきりになり全員をみることができなかった。

年下ばかりだったがそれでも緊張した。だらしのないお兄さんに見られたら嫌だった。自分はこのなかのリーダーなのかと本当に不安だった。ものをくばるときに手が震えた。女の子が多かったが、女の子からうまく意見をひきだすことができなかった。参加者のみんなも緊張してたと思うけれども、質問はうまくだせた。

絵をかけない子のフォローをしたけど、もっとそれ以上のことがやりたかった。みんなの意見を引き出しながら、意見交換できたら良かった。



まず、自分は笑顔で話しかける。相手に接しやすいように、なるべく笑顔。1人1人を引き出す。がんばって聞く。(聞き出す工夫は)特に持ってなかった。そのとき一生懸命考えて、いろいろ共感する。

不安を抱えている者もいるし、結果としてうまくファシリテーションができなかったと感じている者も多い。実際、オリエンテーションの会場の雰囲気は、参加者が初対面同士のグループに分けられ、なれないことをさせられているせいか、100名以上いたにもかかわらず、会場は静まり返って重々しい雰囲気であった。グループ内で話を促しても、うつむいた小声でボソボソと返ってくるのでは、受講者も困惑したに違いないだろう。しかし、そんな中でも、自分はファシリテーターであるという明確な役割をきちんと認識していたことがうかがえる。笑顔で場を和ませる、相槌をうつ、自分から話しかけるなど、ファシリテーター養成講座で学びとった基本スキルを活用し、参加者とのコミュニケーションをはかっていた。すなわち、「ファシリテーター」としてふるまうことが、結果的に積極的なコミュニケーションを促したといつてよい。

また、役割の効果はコミュニケーションだけではなくワークショップの分析にもおよぶ。オリエンテーション終了後のふりかえりでは、自分ができたこと／できなかったことだけではなく、ワークショップのプログラムや進行方法の問題点を指摘している。

「県名クイズ」をやらなかったために、アイスブレイクが完全にはできなかった。

自己表現なのに、名前を(画用紙の)右下に小さく書くのはおかしい。

絵日記のまわし読みは、(読む人の中では)絵日記とそれを書いた人がつながらなかったのではないか。

## 1-2. コミュニケーションをとることによって役割を見出す

小学生に算数を教える手伝いをした。もっともKさんが前で講師をしているので、自分は教えるというより寄り添うかたちになった。2人うけもって、最初の子はあまりできないので「ここをこうやって、次をこうやって」というかたちで寄り添った。

なるべく子どもと同じ目線になるようにひざ立ちとかをした。

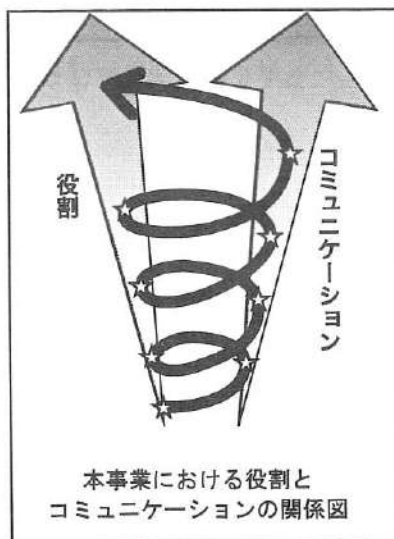
デイサービスは、会話が主体になって、ボギャブラリーが少ないことを感じた。打ち解ければ、話ぐできた。会話をつなぐ技術、相づちが必要・・・無意識のうちに使っていた。

ヒアリング時の発言である。各活動現場にわかれてのボランティア体験の場合は、団体の人々や、ボランティア活動の対象者（子どもや障害者など）とのコミュニケーションの取り方を考えながら、その日の活動の中での自分の役割を見出そうとしたり、よりよい活動をしようとする姿勢がうかがえた。

今回のボランティア体験における役割は、おおまかに 2 つにわけられる。ひとつは、他のボランティアとの共同作業における役割、もうひとつはヒューマン・サービス（対人行為の活動）の分野における役割で、これはサービスを提供する相手（例えば話し相手の高齢者）に対する役割である。

ここで、「役割」とは、他者との関係の中で自身に期待されているはたらきのことであるという、基本的な点を確認しておきたい。つまり役割を明確にするためには、（それが共同作業であれば、サービスの相手であれば）他者と自己の関係を明確にする作業が要求される。この他者と自己との関係を明確にするための手段がコミュニケーションであることはいままでもないだろう。共同作業やサービスの相手とコミュニケーションをとることや、コミュニケーションをどのようにとるかを考える中から、彼らと自己の関係が明確になり、その関係の中で自分がどのように動けば良いかがわかるのである。

このように本事業では「ファシリテーター」というコミュニケーションを用いる役割をプログラムの要素とした結果、「役割」と「コミュニケーション」が相互に影響を与えながら、受講者の自我の形成にかかわっているのが見られる。第 1 章において、われわれはファシリテーターの立場から Let's 体験にかかわった参加者の変容について、コミュニケーション力に対する自信が Let's 体験の効果を増幅したのではないかと述べた。以上の「役割」と「コミュニケーション」の関係についての考察から、その意味が明らかになったように思われる。



## 2. 社会の多様性を知り地域を理解しようとする

若者が地域社会を信頼するためには、まずは地域をよく理解することからはじめるべきであろう。そのために本事業では、社会体験活動として、NPO・市民活動団体でのボランティア体験を採用した。アルバイトや職業体験と違い、NPO活動・市民活動は一般的に地域の課題に取り組む活動であり、たいていの場合、受講者が普段接している世界とはちがった層に属する活動でもある。つまり身近でありながら今まで気づけなかった異質な世界だと言えよう。普段と異なる、地域のさまざまな面を知ることで、地域社会の中で自分の役割を見出すきっかけとなるだろう。

ところで、そうした普段と異なる環境へ入る場合、第一印象で嫌悪感をおぼえてしまったり、活動の中へ入り込めないまま終わってしまう場合もままある。今回の受講者にもそういう場面があった。

(花壇整備の活動に行つて) 初めてだったのと、自分が内容を知らないで、全然話には入れなかった。その後、ちょっと晴れて、どの花を植え替えるかを考えながら花壇で花を見た。前の話を知らないから、見ているだけ。(団体の活動について) 聞いてはみた。でも、きつかった。

(複数の活動に参加したが) どこの団体にも継続してボランティアにきている人がけっこういた。それは自分にはないので、最初はやっぱりなじめない。自分以外は知り合いと考えると、まったく知らない人たちが集まったところにいるので。

異集団の中に入る場合、とまどいがあるのは当然である。むしろ、そうしたとまどいや驚きが、受講者自身の学びにつながった点に着目すべきだろう。

ぼっかぼかの会は(障害をもった子どもたちの) お母さんたちがすごく元気でびっくりした。

よだれがついたらいやだと思った。障がいのある人を受け入れるのは難しい。

今まで森の整備をやったことがなかった。近隣住民との折り合い、情報誌を出して住民に伝えてることを知り、周りの人のことも考えないといけないというのが勉強になった。興味をもったのは今年からで、今までは森を見ても管理している人の事は知らなかった。

他の子どもと遊ぶたぐいの団体には参加していないが、アルトの会は子どもと近いところに大人がいる。大人／子どもという境界をあいまいにしている。あくまで子どもの自主性にまかせ。やりたくない子がいても強制はせず、いかにして子どもの自主性をそっちにむけるかを考える。

受講者によりさまざまであるが、異質な世界に触れた驚きや、活動の中で気づいたことを自分なりに受けとめていることがわかる。前節において受講者それぞれが活動中での自身の役割を見出そうとしたことについて述べたが、役割を見出すためには活動そのものについて理解することが必要だろう。受講者はそうした積極的に活動を理解しようとする過程で、活動の意義や地域の課題について深く知ることができたのではないだろうか。

ファシリテーター体験セミナーで、受講者自身が体験をした団体の人々がなぜ市民活動をおこなっているかを尋ねたところ、たとえば以下のような答えが返ってきた。

子どもが好きという思いもあると思うが、実はもっと深いことを考えているんじゃないかと思う。少子高齢化や子どもが住みやすい国ということについて考えた時に、国の将来のために子どもがたくさんいたほうがいいのか、そこまで考えているんじゃないか。

看護大学の先生がやっている団体。看護協会が「ボランティアしたほうがいいのか」という流れになって、その中で自分ができることをやろうとしているのではないか。

(団体の人たちは) ボランティア団体をやっているうちに、「そうしなければならない」というような義務感が生まれてきたのではないか。

発言の当否については、ここではおく。重要なのは「困った人を助ける」や「自然が失われているから」といった単純な(大事なことではあるが)捉え方をせず、活動と社会との関係や、活動をつづける団体の気分までをみようとしている点である。活動を社会から遊離したものではなく、社会との関係の中においてみるこの視点こそ、受講者がこれから地域社会とかかわろうとするときに、より深い体験を促す助けとなるだろう。

## 第5章 提案

前章までの考察を通し、ファシリテーター体験セミナーは、青少年の意欲向上・自立支援にあたって一定の効果をもつことが明らかにされた。さらにわれわれは本事業を他の多くの地域でも実施できる普遍的な「次世代育成プログラム」としていきたい。

本章では、本事業を評価し、実施のために必要な要件を挙げる。

### 1. 事業の評価と今後の課題

まず、第1章において提出した本事業の4つの特徴について実際の実施結果にもとづき評価する。

- ① 主体的に学ぶために個々のコミュニケーションを重視したワークショップを取り入れ、学びの現場で実践し、成果を持ち帰りふりかえりを行うという三つのプロセスを織り込んだ教育と参加体験を組み合わせたプログラムであること。

最初のファシリテーター養成講座では、コミュニケーションを見直す、ファシリテーションのスキルを身に付けるという趣旨のもと、参加体験型の学習をおこなった。養成講座から間をおかず、実践の場であるLet's体験!!2007オリエンテーションがあり、学んだことを忘れないうちに実践し、身に付けることができるようにした。また、セミナー中の各プログラムについては、養成講座終了後のアンケート、Let's体験!!2007オリエンテーションとふりかえりの会終了後のふりかえり、ファシリテーター体験セミナーふりかえりの会でのボランティア体験のふりかえりを行い、セミナー全体については受講者へのヒアリングをおこなった。こうしたふりかえりの場で、受講者が自分の体験を言葉にして人に説明する過程を通して、体験から得たものを深めることになった。

- ② 地域社会との密接なつながりのあるNPO活動やボランティアに参加する(Let's体験!!)ことで、この企画終了後も、参加者がコミュニティと継続した関わりをもてる企画であること。

ボランティア体験を通して、今まで気がつかなかった地域課題を受講者が発見したこと、ファシリテーター体験セミナーふりかえりの会でNPO・市民活動に対する理解が深まり、地域社会へ関心をもてたことは、前章までで見てきた通りである。関心を行動へ移すため、受講者のその後の活動をフォローアップするプログラムが提供できれば、地域との継続的なかわりが期待できる。

- ③ 青少年の自立への支援と地域の教育力との再生を効果的につなぐ相互循環型事業であること。

青少年の意欲向上、自立支援という点からは、第3章に述べたとおり、受講者が各プログラムを通して自分の役割を認識し自ら考え動き出そうとしていたことから、その効果は評価できるだろう。ヒアリングやふりかえりからは、NPOの活動に参加し地域の異世代と交流することで、様々な形の気づきや触発されるものを得ていることが分かる。また、地域課題への関心と理解も深まっている。これらのことから、この二つの事象が相関関係にあることは容易に想像できる。この二つの成果を持って、地域が若者の自立の支え手となった、つまり、今回の試みが地域の教育力の再生を促していると考えるのは、早計であろう。もう少し具体的な働きを見るための試みに取り組まなくてはならない。

地域に入った若者がそこで学び、地域の再生の担い手となり、魅力的なコミュニティを創り、新たな若者を呼び寄せていくという相互循環型事業となるためには、まだ検証の時間が必要である。

- ④ 公設の中間支援施設（まつど市民活動サポートセンター）がハブとなり、コーディネーション機能を担うことにより、地域と行政が実質的に一体となって、青少年の自立支援を行うことの効果を検証できること。

参加者、ボランティアを受け入れるNPO・市民活動団体、行政、参加者を送り出す保護者と学校など、Let's 体験!!は地域を構成する多様な主体の協力のもと成り立っている。各主体をつなぐコーディネーション機能を担うのが、まつど市民活動サポートセンターである。ファシリテーター体験セミナーは、体験活動のプログラムにLet's 体験!!を配置することで、より質のいい体験活動の場を、受講者に対して提供することができたと考えられる。Let's 体験!!にのりかかることによって実現し得たといつてよい。

そういう意味で、地域と多様な主体をつなぐ中間支援の機能は重要であり、地域と行政が一体となるための必要な機関であったことは、検証できた。また、まつど市民活動サポートセンターが蓄積した成果が、青少年の自立支援を行うことの効果を検証できる土壌をつくり上げたことも言えるだろう。

これからの課題は、地域の公設の中間支援組織がこういった機能を持つための必要な要素を洗い出し、普遍化していくことである。

## 2. 次世代育成プログラム実施のための要件

### ①学習と実践の場をつなげたプログラムの構成

本事業では、ファシリテーター養成講座という理論的な学習の場から時間を空けずに、ボランティア体験企画のオリエンテーション及び各団体での体験プログラムを行った。このボランティア体験企画である Let's 体験!!2007 のオリエンテーションは、本事業参加者が企画・運営・反復を自ら行う上で非常に重要な役割を占めている。また、学習と実践の場がつながっていたことで、忘れないうちに学んだ内容を生かした上での内省を促すことができる。

主体としては、本調査事業全体を通じて、(1)企画全体を運営する中間支援組織、(2)青少年ボランティア受け入れを行う NPO、(3)大学教員、(4)市民活動担当、社会教育担当の行政の四者が関わって実施した。前二者を欠いては事業全体を実施できないことは当然だが、加えて大学が一緒に取り組むことで本事業に対する教育界の理解が進み、地域と大学の架け橋となったこと、行政が 2 部門関わったことで横断的に実施すべき次世代育成施策として位置づけていく機会になったこと、の成果が得られた。

また、事業の展開・将来性を考えると、より多くの市町村で実施されることが、参加者のハードルを下げ、施策・地域ニーズと合致した形につながるのではないだろうか。

長期的な視点に立つと、事業を繰り返し実施することにより青少年を受け入れる NPO 側の体験プログラムの質と学習効果の向上が見込まれる。また、青少年が他者とコミュニケーションを図る場が減少する傾向は長期化しているため、年々入れ替わる地域の青少年・学生に対して継続実施していく必要がある。

### ②多様な主体の参加の場をつくる中間支援センター

ファシリテーター体験セミナーは、地域社会を構成する多様な主体（学生、NPO・市民活動団体、行政、学校など）の協力を得てはじめて実現する。各主体が、「青少年の自立支援・意欲向上」という大目的を共有しながら、対等な話し合いと参加の場をつくるために、どの主体にも傾かず中立の立場から各主体を支援する中間支援センターが必要である。

中間支援センターは、単なる会議の場所であるだけでは不十分である。日頃から、地域の NPO・市民活動団体と関係をつくり、地域課題の把握や団体の内情などに精通していることが必要である。また、地域の教育力の再生という観点から、ボランティアを受け入れる団体のスキルアップとしての事業や、市民活動の拠点としての機能をもっていることも重要であろう。

### ③各主体をつなぐ専門性をもったコーディネーターの存在

上記 2 つの要件を踏まえ実質的に事業を進めていくために必要なのがコーディネーターである。物理的な場所の問題などはともかくとして、プログラムの企画・実施や各主体の調整などは、専門性をもったコーディネーターなくしては不可能であるといつてよい。コーディネーターの役割は、セミナー各プログラムの企画・実施の他に、地域課題の把握、

受講者のフォロー、受け入れ団体のプログラム作成支援、教育機関や行政、NPO・市民活動団体など各参加主体との調整など多岐にわたる。

とはいえ、コーディネーターの重要性・専門性については、まだあまり認められてないのが現状である。コーディネーターの重要性の社会的な認知と、専門性をもったコーディネーターの育成が望まれる。





# 資料編

## 資料一覽

1. 実行委員会会則 . . . . . p.41
2. 実行委員会開催記録 . . . . . p.42
3. ファシリテーター体験セミナー受講者募集ちらし . . . . . p.43
4. ファシリテーター養成講座テキスト . . . . . p.45
5. 市民社会パートナーズ紹介 (養成講座講師の紹介) . . . . . p.55
6. 養成講座アンケートまとめ . . . . . p.56
7. Let's 体験!!2007 ちらし . . . . . p.62
8. Let's 体験!!2007 受け入れ団体プログラムリスト . . . . . p.63
9. Let's 体験!!2007 オリエンテーション・ふりかえりの会 . . . . . p.65  
(Let's 体験!!2007 ふりかえり文集より)
10. Let's 体験!!2007 オリエンテーション  
    ファシリテーターふりかえり記録 . . . . . p.69
11. 団体ヒアリングまとめ . . . . . p.72
12. Let's 体験!!2007 ふりかえりの会  
    ファシリテーターふりかえり記録 . . . . . p.76
13. 受講者ヒアリングシート . . . . . p.77
14. 受講者ヒアリングまとめ . . . . . p.78
15. 受講者レポート1 . . . . . p.90
16. ファシリテーター体験セミナーふりかえりの会 実施結果 . . . . . p.91
17. 団体意見交換会 実施結果 . . . . . p.93
18. 報告会 実施結果 . . . . . p.97
19. 報告会ちらし . . . . . p.98
20. 報告会 報告資料 . . . . . p.99
21. 受講者レポート2 . . . . . p.105

## ‘NPOでつけるコミュニケーション力’ ファシリテーター体験セミナー実行委員会会則

### (名 称)

第1条 本委員会は、ファシリテーター体験セミナー実行委員会と称します。

### (事務局)

第2条 本委員会の総務を処理するため、特定非営利活動法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンクに事務局を置きます。事務局長は実行委員会の総務を処理します。

### (目 的)

第3条 本委員会は、NPO 並びに地域をフィールドにした青少年のコミュニケーション力を育む体験活動に関する調査研究事業の実施を目的とします。

### (組 織)

第4条 本委員会に委員の互選により実行委員長 1人並びに副実行委員長 1人を置きます。

2 実行委員長は、本委員会を代表し会務を統括します。副実行委員長は、実行委員長を補佐し、実行委員長に事故ある時は職務を代行します。

### (活動)

第5条 本委員会は、第3条の目的を達成するために、青少年のコミュニケーション力の向上を目的とした教育プログラムと、実践の場としての社会体験の機会を提供する参加体験型プログラムを組み合わせた実施とその検証を行います。

### (解 散)

第6条 本委員会は、第3条の目的を達成した時点で解散します。

### (旅費、謝金等の支払い)

第7条 旅費支給、謝金単価基準等の会計事務処理は、別に定める謝金に関する規定に準拠します。

### (書類等の保存)

第8条 実行委員会解散後の証拠書類等の保存は、事務局を担う特定非営利活動法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンクにおいて、適正に保管します。

### (その他)

第9条 上記の他必要な事項は、実行委員会に諮り実行委員長が定めます。

### 附 則

1 本会則は、平成19年3月1日から施行します。

**‘NPO でつけるコミュニケーション力’ ファシリテーター体験セミナー実行委員会 開催記録**

回	開催日	議事概要
第1回	2007年 6月6日(水)	(1)実行委員長及び副実行委員長の選出 (2)今後のスケジュールと会議の進め方について (3)報告書の構成について (4)調査方法について (5)ファシリテーター養成講座のプログラムについて
第2回	6月23日(土)	(1)チラシの確認・内容・会場 (2)セミナー応募状況委員に確認 (3)コミュニケーション力について項目出しの作業 (4)第1回の講座のアンケート (5)ファシリテーター養成講座のプログラムの提案
第3回	7月23日(月)	(1)7月1日・8日のセミナーおよびLet's 体験!!2007 オリエンテーションの報告 (2)本調査の骨子案についての提案 (3)今後の調査方法と体制について
第4回	8月22日(水)	(1)Let's 体験!!2007 プログの設置(報告) (2)Let's 体験!!2007 ふりかえりの会企画会議(報告) (3)報告書スケルトン事務局案 (4)今後の調査について
第5回	9月26日(水)	(1)Let's 体験!!2007 ふりかえりの会(報告) (2)ヒアリング/レポートの実施について(報告) (3)データに関する意見交換 (4)今後の調査について (5)報告書について
第6回	10月22日(月)	(1)ファシリテーター体験セミナー ふりかえりの会(報告) (2)参加団体意見交換会(報告) (3)データ分析の途中経過(報告) (4)報告会の組み立てについての検討
第7回	11月22日(木)	(1)11月25日(土) 報告会「ワカモノと地域のイイ関係！」の内容検討
第8回	12月12日(水)	(1)報告会「ワカモノと地域のイイ関係！」の報告 (2)報告書についての意見交換 (3)ワーキングチームについて
第9回	2008年 1月30日(水)	(1)報告書についての意見交換 (2)概要版の制作について (3)ワーキングチームについて
第10回	2月28日(木)	(1)報告書の確認 (2)概要版の進捗状況報告

※会場は、第1回～2回はまつど市民活動サポートセンター、第3回～10回は聖徳大学生涯学習社会貢献センターを利用した。



今年の夏こそ、  
「変わったね」

## あなたを変える！ ファシリテーター体験セミナー

学ぶ・創る ファシリテーターに変身	出会う・感じる 実践・ファシリテーター	「変わったね」 ふりかえりの会
7月 1日(日) 8日(日)	7月 14日(土) 7月中旬～8月 8月 25日(土)	9月下旬予定 (一日のみ)

「人前がどうも苦手」、「対人関係に不安がある」あなた。「何かをしたいけれど、一歩踏み出す勇気がない」あなた。ファシリテーター体験セミナーに参加して、理想のあなたへの第一歩を踏み出してみませんか？

ファシリテーター(Facilitator)とは、いろいろな人たちが話し合う場で、意見を引き出し、ゴールへつなげる役割のことです。「ファシリテーター体験セミナー」では、中学生から大学生が参加し「ボランティア」について考えるワークショップで、実際にファシリテーターを体験することにより「他人の気持ちを受けとめる力」、「異なる価値観をもつ人たちとコミュニケーションする力」を養います。

※詳細は裏面をご覧ください。

主催：「NPO につけるコミュニケーション力」 ファシリテーター体験セミナー実行委員会

共催：まつど市民活動サポートセンター

文部科学省委託事業

と言わせたい！

# あなたを変える！ ファシリテーター体験セミナー

参加費：無料 対象：高校生・大学生・20代の青少年 定員：25名 申込〆切：6/30(土)

## あなたを変える ステップ①

### 学ぶ・創る ファシリテーターに変身

**第一回 7月1日(日) 10:00~17:00 ファシリテーターの技術を学ぼう！**

ファシリテーターは、コミュニケーションを引き出す人。でも、それってどうやるの？ 百聞は一見にしかず。実際にワークショップをやりながら、ファシリテーターの技術を学びます。

**第二回 7月8日(日) 10:00~17:00 ワークショップをデザインしよう！**

ファシリテーターの役割がわかったところで、今度はステップ②で実践するワークショップをデザインしてみます。あなたの個性をフル活用！

あなたを磨く...

講師

**庄嶋 孝広**さん (市民社会パートナーズ代表)

33歳。大学卒業後、外資系企業やNPO法人で働きながら、ついに自分がやりたい仕事を発見！みんなで力を出し合う地域づくりのお手伝いをしたいと、起業して「ファシリテーター」(話し合いのお助け役)をやっています。趣味は、世界を旅して、笑顔に出会うことです。

## あなたを変える ステップ②

### 出会う・感じる 実践・ファシリテーター

**夏のボランティア体験講座「Let's 体験 2007」があなたの初舞台**

いよいよファシリテーターの実践です。まつど市民活動サポートセンターが主催する中学生から大学生対象のボランティア体験講座「Let's 体験 2007」があなたの活躍の場。初めてボランティア体験をする学生たちが、「ボランティアってなんだろう？」を考えるオリエンテーション、そしてボランティア体験終了後のふりかえりの会でのワークショップで、みんなの思いを引き出してカタチにするのを手伝います。また、みんなと同じ立場に立てるよう、あなたもボランティア体験をしてみます。

オリエンテーション 7月14日(土)

ボランティア体験 7月~8月のあいだ

Let's 体験ふりかえりの会 8月25日(土)

## あなたを変える ステップ③

### 「変わったね」 ふりかえりの会

9月下旬(予定)

最後は、これまで学んだこと、感じたことをふりかえり、整理整頓してしっかり身につけます。これであなたも「変わったね」。

主催：“NPO でつくるコミュニケーションカ”

ファシリテーター体験セミナー実行委員会

共催：まつど市民活動サポートセンター

事務局：NPO 法人 CoCoT(ココット)

※本セミナーは文部科学省「青少年の意欲向上・自立支援事業」の委託事業です。

#### 申し込み

まつど市民活動サポートセンター

(指定管理者 NPO 法人 CoCoT)

〒271-0094 松戸市上矢切299-1

TEL 047(365)5522 / FAX 047(365)5636

e-Mail hai\_saposen@matsudo-sc.com

URL <http://www.matsudo-sc.com>

開館日 月~土(9:00~21:00)・日(9:00~17:00)

閉館日 第一・第三水曜日

# あなたを変える！ファシリテーター体験セミナー 学ぶ・創る ファシリテーターに変身

講師 しょうじま たかひろ 庄嶋 孝広 (市民社会パートナーズ代表)

## 2日間の目標

1. コミュニケーションを助けるファシリテーターになる
2. Let's体験2007のオリエンテーションのプログラムをつくる

## プログラム

第1日 7月1日(日) ファシリテーターの技術を学ぼう！

★ コミュニケーションとファシリテーションを知るゲーム

- この指とまれで仲間さがし
- ジェスチャーで自己紹介
- 私はだあれ？
- 実験1「お互いを知ろう」
- ファシリテーターは「相づち上手」
- ファシリテーターは「引き出し上手」「まとめ上手」
- 講義「コミュニケーションとファシリテーション」

★ 「ボランティアって何だろう？」をテーマにファシリテーター体験

- 話を書きとる - 人に助けてもらった思い出
- 絵を描く、ポストイットトーク - ボランティアのイメージ
- 寸劇づくり - ボランティア物語

第2日 7月8日(日) ワークショップをデザインしよう！

★ Let's体験2007のオリエンテーションのプログラムをつくる

- 講義「ワークショップの企画」「昨年のプログラムのおさらい」
- グループで企画する
- グループの企画を評価する、全体で企画をまとめる
- リハーサルする
- 実験2「感想を話し合おう」



## コミュニケーションとファシリテーションを知るゲーム

### この指とまれで仲間さがし

今日はどんな人が来ているでしょう？ 「この指とまれ！」で仲間を探しましょう。

#### [手順]

- ① 「どこに住んでいますか？」「好きなスポーツは？」など、お題を決めます。
- ② 「野球！」「サッカー！」など、言い出しっぺが呼びかけて、仲間が集まります。
- ③ 集まった仲間で、簡単に情報交換します。

#### [道具]

(特になし)

#### [ねらい]

知らない人たちのなかから、自分と共通点を持った人を探し出し、おしゃべりするきっかけが見つかります。また、全体的にどんな人がいるのかもわかります。

### ジェスチャーで自己紹介

自己紹介でお互いを知りましょう。ちょっとでも印象に残るように・・・

#### [手順]

- ① 名前、学年、受講動機、自分と言えば〇〇・・・、まずは紙に書き出します。
- ② 自己紹介をします。その際、「自分と言えば〇〇」には、ジェスチャーをつけます。
- ③ みんなでジェスチャーを反復します。

#### [道具]

・ サインペン    ・ A4 コピー用紙    ・ 模造紙

#### [ねらい]

いちどにたくさんの自己紹介を聞いても、ほとんど覚えられません（特に、大人になると・・・）。ちょっとでも印象に残るように、身体を使った動作を入れます。

## 私はだあれ？

自分のことはよく知っているつもり。でも、今日は自分の知らない自分になってみます。

### [手順]

- ① 付箋に人間以外の生き物（動物、植物など）の名前を書き、隣の人のおでこに貼ります。
- ② 自分のおでこに貼られた生き物＝自分は誰か？ 「はい」「いいえ」で答えられる質問をみんなにします。質問された側は、「はい」か「いいえ」だけ答えます。
- ③ 自分が誰だかわかったら、みんなに言って確かめます。

### [道具]

・ サインペン    ・ 付箋    ・ セロハンテープ

### [ねらい]

自分を知るためには、他人とコミュニケーションをとることで気づくこともたくさんあります。

## 実験1「お互いを知ろう」

15分間、同じグループの仲間で知り合う時間にします。どれだけ知り合えるでしょう？

### [手順]

- ① 話し合いの方法はお任せします。15分間でどれだけ知り合えるでしょう？
- ② 15分間経ったら、どれだけ知り合えたか「テスト」（イヤな言葉でゴメンね）します。

### [道具]

（ヒ・ミ・ツ）

### [ねらい]

（ヒ・ミ・ツ）

## ファシリテーターは「相づち上手」

話を聴きながらうなづくこと＝相づち。相づちのない会話は、ワサビ抜き寿司のよう？

### [手順]

- ① 今日、朝起きてからの出来事を、相方に話してください。
- ② 相方は、最初のうちは、相づちを打たないようにし、途中から、相づちを入れます。
- ③ 相づちがあるとき、ないときで、どのような感じがしたか、話し合います。

### [道具]

(特になし)

### [ねらい]

コミュニケーションは、一方通行では成り立ちません。相手の反応があることで、もっと話そうという気になります。

みんなのコミュニケーションを助けるファシリテーターは、よい聞き役になることで、みんなが発言しやすいような雰囲気をつくれます。

## ファシリテーターは「引き出し上手」「まとめ上手」

話したいのに話せない。そんなとき、「〇〇さんは、どう？」と声をかけてくれたら・・・

### [手順]

- ① 「好きなテレビ番組は？」など、みんなに聞きたいお題を設定します。
- ② お題について、順番に全員から意見を聞き出します。
- ③ どんな人が多かった、少なかった、バラバラだったなど、傾向をまとめます。

### [道具]

(特になし)

### [ねらい]

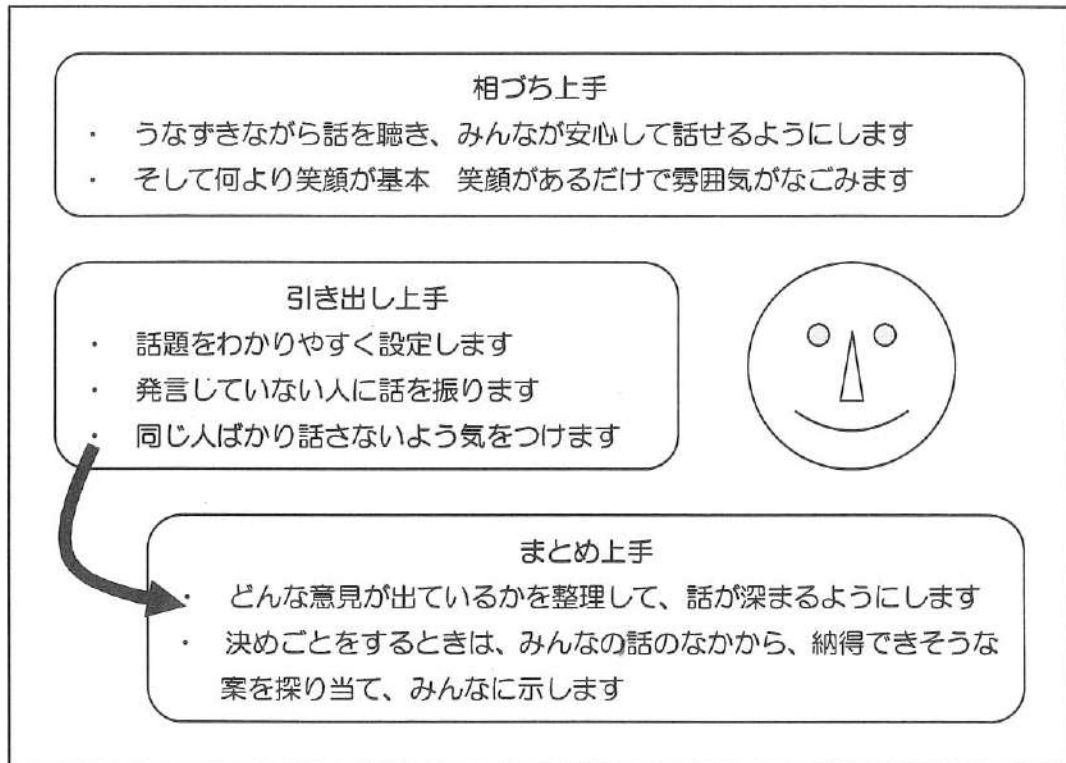
おしゃべりな人だけが話すのではなく、みんなが話せるようにしてあげるのもファシリテーターの役割です。

話題を確認して、話を振り、話を整理する。それがファシリテーターです。

## 講義「コミュニケーションとファシリテーション」

ファシリテーターはコミュニケーションを助ける人

「ファシリテート (facilitate)」は、「促進する」「容易にする」といった意味を持つ英語です。「ファシリテーター」は、みんながコミュニケーションをとるお手伝いをする人です。



ファシリテーターを何かにたとえると

### ① 船の舵 (かじ) 取り

せっかくいい話をしているのに、途中で脱線。さっきの話が中途半端になっちゃった。そんなときは、しばらくして、元の話題に戻しましょう。

みんなの「話の荒波」のなかで、よりよいコミュニケーションがとれるように、舵を取ります。

### ② オーケストラの指揮者

ファシリテーターがいるコミュニケーションの場では、みんなファシリテーターの動きを見守っています。それは、まるで、指揮者が振るうタクトを見つめているよう。

ファシリテーターが黙り込んでしまうと、みんな困ってしまうので、「そうだね」「なるほどね」など言葉をつなぎながら、話しやすい雰囲気を漂わせます。

## 「ボランティアって何だろう？」をテーマにファシリテーター体験

### 話を書きとる — 人に助けてもらった思い出

話し合っている内容を、模造紙などに書きとると、それは共通のノートになります。

#### 【手順】

- ① 人に助けてもらった思い出話を、それぞれ簡単にメモします。
- ② ある人が語る思い出話を、別の人が模造紙に書きとります。

#### 【道具】

- ・ 鉛筆
- ・ A4 コピー用紙
- ・ マーカー
- ・ 模造紙

#### 【ねらい】

みんなが見える場所に貼った模造紙などに発言を書きとると、どんな意見が出たのか、何が決まったのかが、そこにいる人にも、遅れて来た人にもわかります。それぞれがメモをとらなくてもよいので、お互いの顔を見ながら話すことにもつながります。

### 絵を描く、ポストイットトーク — ボランティアのイメージ

自分の持っているイメージを、絵に描いたり、付箋に書き出したりしてみましょう。

#### 【手順】

- ① ボランティアのイメージを、絵に描きます。1枚だけでも紙芝居でもOKです。
- ② 絵の説明をしながら、ボランティアのイメージを発表します。
- ③ みんなの発表を聴いて、さらにイメージしたことを付箋に書きます。

#### 【道具】

- ・ クレヨン
- ・ A4 コピー用紙
- ・ サインペン
- ・ 付箋（ポストイット）

#### 【ねらい】

絵に描くことも、付箋に細切れの考えを書き出すことも、ぱく然としたイメージを表現するのに向いています。自分の持っているイメージを表現することは、自分とのコミュニケーションになります。

## 寸劇づくり - ボランティア物語

みんなの考えを寸劇の形にまとめてみます。そして、実際に演じてみましょう。

### 【手順】

- ① 先ほど絵に描いたり、付箋に書き出ししたりしたイメージをもとに、寸劇のストーリーを考えます。みんなが話す内容を書きとりながら、少しずつストーリーを整理します。
- ② おおまかなストーリーができたら、リハーサルをします。セリフはリハーサルをしながら、アドリブで考えていきます。役柄を書いた紙を首からぶら下げます。
- ③ 寸劇を発表します。

### 【道具】

・ マーカー    ・ 模造紙    ・ A4 コピー用紙    ・ ビニールひも

### 【ねらい】

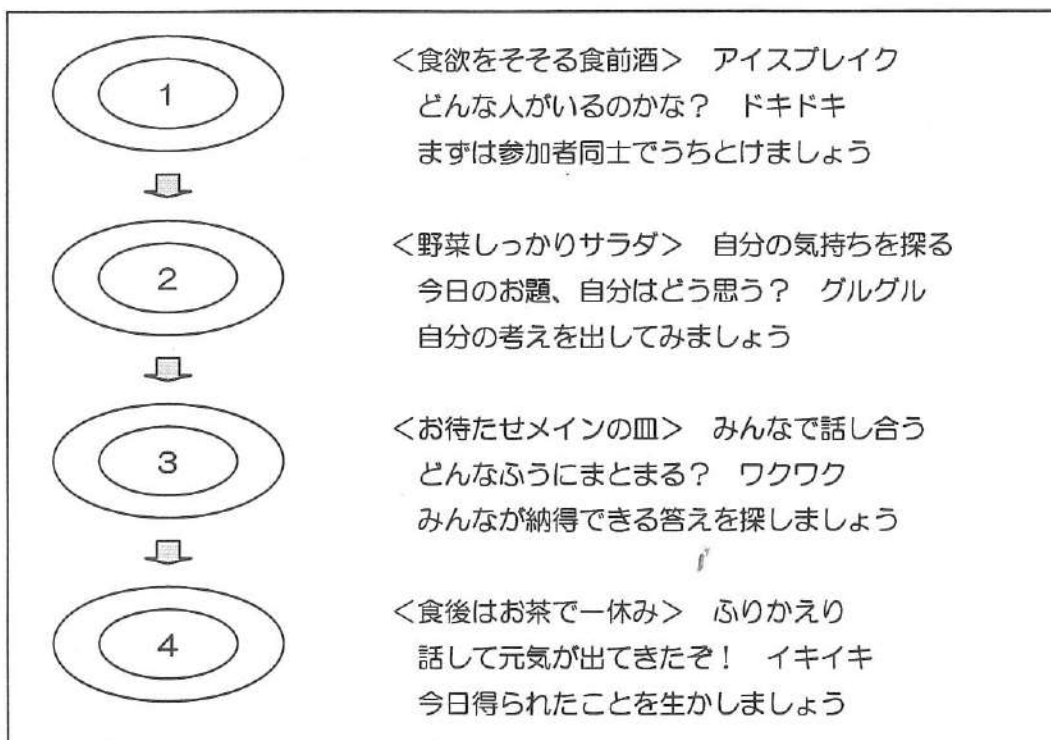
寸劇という1つの物語に仕立てることで、頭の中で考えているだけではわからないことにも気づきます。また、寸劇で普段の自分と違う役柄を演じることは、その人の気持ちを想像することにつながります。

Let's 体験 2007 のオリエンテーションのプログラムをつくる

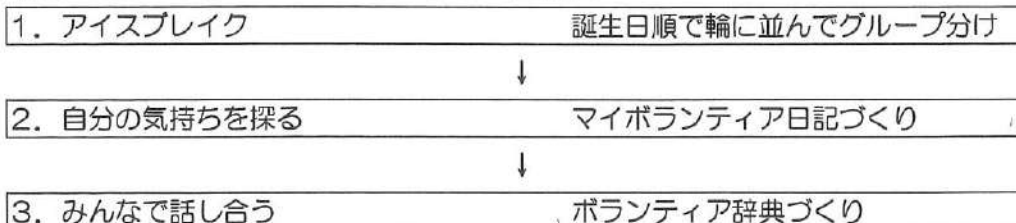
講義「ワークショップの企画」「昨年のプログラムのおさらい」

ワークショップの流れはコース料理のよう

「ワークショップ (workshop)」はみんなが積極的に参加できるよう工夫された話し合いの場・方法です。各自の気持ちを引き出して、みんなで答えを探していきます。



昨年度のオリエンテーションのプログラムの流れ



↓ ↓ ↓

団体とのマッチング  
 夏休みのボランティア体験へ

## グループで企画する

グループで話し合っ、オリエンテーションで行うアイスブレイクの時間を企画します。  
企画した内容は、模造紙にまとめます。

## グループの企画を評価する、全体で企画をまとめる

模造紙にまとめた企画について、支持できる点、支持できない点を出し合います。  
投票でベース案を決めて、他の案と足し引きしながら全体の企画をまとめます。

## リハーサルする

企画がまとまったら、役割分担を決めて、リハーサルします。  
リハーサルしてみて、改善する点などは修正します。

## 実験2「感想を話し合おう」

15分間、同じグループの仲間でセミナーの感想を話し合う時間にします。うまく話し合えるでしょうか？

### [手順]

- ① 話し合いの方法はお任せします。15分間でどれだけ話し合えるでしょうか？
- ② 15分間経ったら、どれだけ話し合えたか「テスト」(もう慣れましたね)します。

### [道具]

(ヒ・ミ・ツ)

### [ねらい]

(ヒ・ミ・ツ)



もっと勉強したいあなたに

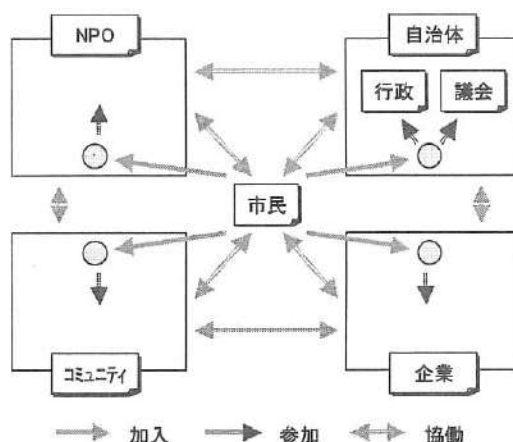
- ①ワークショップ ー新しい学びと創造の場ー  
中野民夫 著 岩波新書 2001年1月19日 740円+税
- ②ファシリテーター型リーダーの時代  
フラン・リース 著 黒田由貴子+P・Y・インターナショナル 訳  
プレジデント社 2002年12月10日 1,600円+税
- ③紛争の心理学 融合の炎のワーク  
アーノルド・ミンデル 著 永沢哲 監修 青木聡 訳  
講談社現代新書 2001年9月20日 700円+税
- ④ファシリテーション革命 参加型の場づくりの技法  
中野民夫 著 岩波アクティブ新書 2003年4月4日 740円+税
- ⑤参加のデザイン道具箱 PART-1~4  
浅海義治・伊藤雅春ほか 著  
世田谷まちづくりセンター 1993年5月~ 各3,500円(税込)
- ⑥会議が絶対うまくいく法 ファシリテーター、問題解決、プレゼンテーションのコツ  
マイケル・ドイル&デイヴィッド・ストラウス 著 齋藤聖美 訳  
日本経済新聞社 2003年6月20日 1,500円+税
- ⑦まとまらない意見をまとめる合意形成の技術  
山路清貴 著 西東社 2004年5月10日 1,300円+税
- ⑧参加するまちづくり ワークショップがわかる本  
伊藤雅春・大久手計画工房 著 農文協 2003年9月25日 2,800円(税込)
- ⑨体験！まちづくり学習  
高田光雄+(社)京都府建築士会まちづくり委員会 編著  
学芸出版社 2003年10月30日 1,500円+税
- ⑩まちづくりゲーム 環境デザイン・ワークショップ  
ハンリー・サノフ 著 小野啓子 訳 林泰義 解説  
晶文社 1993年5月30日 2,900円(税込)
- ⑪問題解決ファシリテーター 「ファシリテーション能力」養成講座  
堀公俊 著 東洋経済新報社 2003年2月20日 2,200円+税
- ⑫会議の技法 チームワークがひらく発想の新次元  
吉田新一郎 著 中公新書 2000年2月25日 740円+税
- ⑬会議革命  
齋藤孝 著 PHP 研究所 2002年10月29日 1,200円+税



# 「学習」と「対話」で市民社会を創造する 市民社会パートナーズ

「学習」と「対話」で市民社会を創造する——をキーワードに、他者の声に耳を傾けたうえで、自分で考えて判断するような、自立した市民による社会、すなわち、市民社会の創造を目指します。

市民社会では、市民が自らの加入する団体（国、自治体、NPO、企業など）の運営に「参加」すること、また、市民個人と団体、団体同士など様々な主体が「協働」することによって、問題解決が図られます。



市民社会パートナーズは、そんな「参加」や「協働」のコーディネート、第三者の立場で行います。具体的には、次のような仕事をします（例示は、実績です。当面は、自治体における参加・協働を主なテーマとしています。）

## (1) 会議や事業のファシリテーション、アドバイス

志木市民委員会、まちづくりサポートネット元気な人間準備会、パートナーシップ市民フォーラムさがみはら準備会、四街道市市民参加条例市民委員会など

## (2) 参加や協働の制度・手法の研究提案

審議会等の公募委員制度、市民会議の運営ノウハウ、市民参加条例の効果検証など

## (3) 市民や自治体議員・職員への研修・執筆

ファシリテーションスキル、ワークショップ技法・設計法など

代表 庄嶋 孝広（しょうじま たかひろ）

**略歴** 1974年福岡県志摩町生まれ。97年慶應義塾大学経済学部卒。アンダーセンコンサルティング、NPO法人まちづくり支援・東京ランポを経て、2006年市民社会パートナーズ設立。07年4月より四街道市任期付職員（政策推進課市民活動推進室）を兼務。ほかに、NPO法人おおた市民活動推進機構副代表理事、社団法人日本経営協会協力講師、聖学院大学コミュニティ政策学科非常勤講師、別府大学人間関係学科非常勤講師。



〒143-0016 東京都大田区大森北 1-30-1 三喜屋ビル2階 ぶらっとホーム大森  
TEL/FAX 03-6231-1730 E-mail cs-partners@nifty.com  
Blog <http://blog.canpan.info/cs-partners/>

ファシリテーター体験セミナー「ファシリテーションの技術を学ぶ」(7月1日)  
アンケート結果 N=18

1. あなたの性別を教えてください

N=18

①男	11
②女	7

2. 今日の講座で「学んだこと」を3つまで書いてください

- 道具の使い方
- ファシリテーターとは
- ファシリテーターはどういうことか
- ファシリテーターという言葉
- ファシリテーターの意味を理解した
- ファシリテーターの役割
- ファシリテーターのところがけること
- まずはファシリテーターがうなづいたり、笑顔でいることで雰囲気を作る
- 人はうなづかれなると不安になる
- 相づちは会話する上で大変重要である
- 「相づち」という何気ない動作の重要性
- あいづちだけでなく息を合わせるという視点
- あいづちがないと話にくい
- 相づちは自分と相手の話を区切り、分かりやすくする
- 相手を知ること
- 人の話をちゃんと聞く
- 人の話を発展させること
- コミュニケーションをとることが大事
- 人とのコミュニケーションをとること
- 間・沈黙を嫌わないこと
- ファシリテーター自身が喋りすぎてはいけない
- 自己紹介の仕方
- 上手に自分の意見を言えたこと
- 自分の意見を積極的に言う
- 発言のときのききとりや話しかた
- 「書き出すこと」の重要性
- 書き取りの方法
- 書き取りの方法 →色の使い方
- 模造紙に人の話をきれいに書くコツ
- 書くことで話が促進できる、共通理解がとれる
- 発言の書き取りは後から見て進行が分かりやすい
- 書き取りの大切さ
- 効果的なメモの取り方
- 発言を聞き取る
- セミナーで学ばせていく流れ
- 指とまれで仲間探し
- 参加者が知り合いになるプロセスの作り方
- ポストイットトーク
- 時間のわりふり

- ジェスチャーでその人の個性がうかがえる
- 「コミュニケーション」で「自分」が見えてくること
- ボランティアは何をするかも大事だが、どんなきもちでやるのかが大事
- ボランティアは好かれるとは限らない
- ボランティアする気持ち
- 実践あるのみ

### 3. 今日の講座で「学べなかったこと」を3つまで書いてください

- 実際の企画・話し合いのやり方
- 企画を作る会議などのファシリテーションの方法
- 場面ごと (ex. 子供相手、大人相手) のファシリテーションの方法
- 町会などでのファシリテーションのコツ
- 地域づくりに活かす方法
- 話し合いの進め方をもっと学びたい
- 話し合いが停滞した時にどうしたらいいのか
- グループ内での会話を活発にするには？
- 話の引き出し方
- 人の話を引き出すこと
- 話をまとめるコツを知りたい
- 人の話を書きとること
- 人前で話すこと
- 話すスキル
- 人前で話す際のスキル
- 「ワークショップ」とは
- 他のグループとあまり話せなかった

### 4. 今日の講座を受講する中で「困ったこと」を3つまで書いてください

- 時間配分が難しかった
- 寸劇のつくり方
- お互いは初めてあったので緊張したこと
- 初めて会う人ばかりだったので緊張した
- 話がうまくまとめないこと
- 書き取りをする自分の字が汚い
- みんなの前で字をかくことにすこし困りました
- 書き取り中に漢字が解らなくて困ってしまった
- 最後のあたりがちょっとぐだぐだだった
- ボランティアに関する絵が描けなかったこと
- うまく話ができなかった
- 手短かにまとめてしゃべるということ
- 司会進行を担当したら話がいきづまった
- 引き出し方、でてきたネタをさらに発展させることが難しかった
- 所々で冷房が強いと感じた
- 1日中というのは参加しにくい

### 5. 今日の講座内容のわかりやすさはどうでしたか？

N=18

①たいへんわかりやすかった	11
②ややわかりやすかった	6
③ややわかりやすくなかった	1
④まったくわかりやすくなかった	0

#### [理由]

- 実際に動きながらだったから
- ゲーム形式で入りやすかった
- 実践が多かったから
- 普段忘れられている事を意識できた
- 色々なワークがあって、分かりやすく行えた
- はなしがゆっくりで、ていねいでした
- ファシリテーションと実際に少しギャップがあった
- 身をもって体験できてよかった。が、実際の状況がまだ想定できない
- 難しい言葉使ってなかったのも、わかりやすかったです
- みんながはっきり自分が思っていることをちゃんと言ってくれたから
- グループワークでわかりやすかった

### 8. その他、今日の講座について感想があればご自由にご記入ください

- たのしかったです
- おもしろい講座で、手を動かしてやることで、とけこめやすかった
- 今日この講座にきて良かったと思う。いっぱいボランティアのことを知りました
- 「実際にやってみて理解する」ことが中心だったので非常にわかりやすかった
- 書き取りは初めてだったので大変でした
- とても分かりやすくまとめられていた会であったと思いました。少ない指示で適確に作業を行わせるスキルがないとできないと感じました
- 大人数での話し方。実践をしたかった
- グループ毎で作業が進み、メンバーの方々とも親しくなれました。今後こういった事をやる場合は少人数制にしていた方が良くと思います
- 私もいつかファシリテーターになりたいと思えたこと
- たいへん参考になりました。ボランティアどころというより、かなり社会で役に立ちそうです。来週も必ず来ます。ありがとうございました。
- もう少し内容を凝縮して午後だけなど、半日で何とかひとコマがおわる形だと参加しやすい
- ゲームなどによる雰囲気づくりや、もともとやる気のある参加者の方が多いため、わきあいあいとできた
- 今日は講座にきて、いろいろ教えてもらって、もっとボランティア活動についての事もいっぱいわかりました

### 9. ファシリテーター体験セミナーを何で知りましたか？

N=16

①チラシ・ポスター	1
②サポートセンターのHP	2
③友人・知人から	11
④その他	2

ファシリテーター体験セミナー「ファシリテーションの技術を学ぶ」(7月8日)

アンケート結果 N=13

1. あなたの性別を教えてください

N=13

①男	7
②女	6

2. 今日の講座で「学んだこと」を3つまで書いてください

- ファシリテーターについて
- ファシリテーターの役割
- グループの中心になっての進め方
- あいづちは大事
- みんなの意見をまとめること
- 聞きながら話をまとめる難しさ
- 人の意見を比較検討すること
- 人前で発言すること
- せっきょく的に意見を言う
- 大きな声ではっきりしゃべる
- 人前で話す難しさ
- 進行の仕方
- ファシリテーターがコミュニケーションを引き出すための技術を学びました
- 話を引き出す難しさ
- 話をまとめる難しさ
- アイスブレイクについて
- いろんなアイスブレイクの方法
- 誕生日並びなどの簡単なレク
- ロールプレイの活用法
- 寸劇の効果
- 寸劇が多様な考えを生むこと
- ボランティアが、昔は当たり前のことだったけど、時代の変遷でそうではなくなったこと
- コミュニケーションの方法
- 初めての人との話が、スムーズに行った
- 人の意見をちゃんと聞き、流れを意識して発言する(参加者の立場として)
- プログラムの提案方法
- 1つの企画が決まるまで多くのプロセスが必要
- 意見をまとめる&決めるのは大変だけど、みんなの知恵(意見)を合わせると面白いものができる
- 良い点だけでなく悪い点も言う

3. 今日の講座で「学べなかったこと」を3つまで書いてください

- 前回欠席だったので、基本的な部分
- ファシリテーターが企画した催事に参加する側の気持ち
- 多人数を前に話をする心がまえ
- ファシリテーターの具体的なスキル
- ファシリテーターとしてのまとめの部分をもう少し学びたかった

- ファシリテーターの実践・・・(当日不安です)
- 実践時間が限られていたこと

**4. 今日の講座を受講する中で「困ったこと」を3つまで書いてください**

- 前回欠席だったので最初の寸劇にはあまりついてゆけず・・・
- ちょっと1回の時間が長いかも・・・
- アイスブレイクを選ぶ3択で分からない点があった
- 休みをもう一回入れてほしかった
- 日本地図が解らない
- 時間が過ぎるのが早くて困った
- グループでアイスブレイクのプログラムを考える際に、スタッフの方4人がすごく良い意見を次々と絶え間なく出していくので、全く参加できなかった
- みんなで討議をしている中、一番若い人が意見を言えなさそうにしてた
- ねんれいが違うと、言葉のうけとり方がちがうこと
- (最初) 前回出席していなかったのが不安だった
- 意見をまとめるのは難しかった

**5. 今日の講座内容のわかりやすさはどうでしたか？**

N=13

①たいへんわかりやすかった	11
②ややわかりやすかった	2
③ややわかりやすくなかった	0
④まったくわかりやすくなかった	0

**[理由]**

- 話し合いをして、その実践まで取り組んだから
- 身をもって体験できたので話を聞くよりわかりやすかった
- 実践が中心だったから
- 考えるだけでなく実践できたから
- まとめなどがあり、ポイントがわかった
- 進め方、途中の多数決等、なるほどと思うところが多かった
- 話が弾んだので
- 打ち解けて会議できた

**6. その他、今日の講座について感想があればご自由にご記入ください**

- いろいろな面で勉強になった。面白かった
- 楽しかったし、色々自分の中で収穫があったので、忘れないように。これから、(まずは14日!!) 生かしていけたらいいと思います
- 実際やって失敗してみてこそわかることがある
- 若い世代の人との交流ができてよかったです。いろんな考えをもっていました
- ワークショップがどういうものなのかよくわかった
- 今後の活動を行う上でとてもためになった
- 楽しく、かつ勉強になりました。しかも無料で開講して頂いて感謝しております。今後ボランティア以外でも生きていくうえでとても役立ちそうで、来て良かった

と思います。ありがとうございました。

- いろいろな人と話せてよかった。げき楽しかったです
- 自分自身の課題もみえた気がしました。また、ファシリテーションというものに興味がわきました
- 前回よりも打ち解けて話のできたので楽しかったです。後半にもう1回、休憩があっても良かったと思います
- 自分も積極的に参加できたので良かった



Let's 体験!!2007 受け入れ団体プログラムリスト

	団体名	受け入れプログラム
子どもウカモノ	NPO法人 おぼろんど	放課後児童クラブで、小学生の生活支援
	NPO 法人 松戸子育てさぽーとハーモニー	野菊野子ども館のアシスタントスタッフ 「おやこ DE 広場小金原」での乳幼児の遊び相手やイベントの手伝い等
	ぽっかぽかの会	障害のある子ども達と遊びを楽しみながら、声かけや介助を行う (カローリング、プール教室、羽田空港へのお出かけ)
	はなまるくらぶ	障害のある子ども達とあそぶ、外出時の安全確認、買い物などのサポート
	いっぽくらぶ	障害児の放課後クラブ (室内や公園などで子どもと遊ぶ、お出かけ時の手伝い等)
	アートの会	竹を使ったものづくりを楽しむ
	松戸市に夜間中学校をつくる 市民の会	毎週火・金の自主夜間中学校での話し相手・勉強のお手伝い 一泊二日のキャンプの手伝い
	不登校問題を考える東葛の会 ひだまり	不登校の子どもと話したり、トランプやウノで遊ぶ
	NPO 法人 こぼていー子ども参画イニシアティブ	「あそぼう会」:小学生と一緒に遊ぶ 「人間天ぷら」:水と小麦粉を子どもと一緒に掛け合って遊ぶイベントの 企画準備と運営サポート
	NPO 法人 外国人の子どものための勉強会	外国人の子ども達の日本語学習のサポート (7/22-26)
	自立サークル FC	松戸養護学校の卒業生などから構成されるメンバーとキャンプで一緒に 食事づくり
	しゃり	小・中学生(発達障害児等含む)との野外活動(キャンプやテント泊など)
パフォーマンス	アート・パフォーマンス・グループ 「アリス」	青少年会館の文化祭を目指して、企画から実行までおこなう
	NPO 法人 車椅子社交ダンス普及会松戸支部	車椅子使用者(高齢者、身体障害者)と車椅子ダンスを通じて楽しみながら 交流する
パソコン	松戸障害者団体連絡協議会	パソコン教室の手伝い (生徒がパソコンで表現したい内容を引き出し、成果物を作る手助け)
	NPO 法人 松戸 ITV ネットワーク	生きがい福祉事業団主催の夏祭りへ参加、デジカメとパソコンを利用して プリクラ、カレンダーなどの作成
	スーパー紙とんぼの会	スーパー紙とんぼの作り方・とばし方を幼児・小学生への指導するお手 伝い
	たのたのじゅく	科学実験教室やイベントの企画運営、記録・撮影など
	イージーキッチン	食育を伝える調理のサポートや調理に参加する人のための保育サポ ート
福祉	社会福祉法人 彩会喜楽家	日常生活の手伝い(身辺介助) 作業の手伝い(名刺づくり、バザーの物品整理、授産品作成の手伝い 等)

	<b>デイサービス六実</b>	利用者とのコミュニケーション
	<b>(社会福祉法人)馬橋ケアハウス なでしこ/デイサービス なでしこ</b>	デイサービス (入浴後のドライヤーがけ、お話相手、各自の活動を一緒に楽しむ)
	<b>北斗の家</b>	夏祭りで模擬店のお手伝い
	<b>はなはなデイサービス</b>	障害をもつ児童とのコミュニケーション、話し相手、見守り、一緒に遊ぶ
	<b>テフィズリーるの会</b>	AED(自動体外式除細動器)の普及活動
<b>運動</b>	<b>NPO 法人スマイルクラブ</b>	「運動が苦手な子の教室」の手伝い。知的障害児も参加しているので、指示に従えない子の誘導などのサポート
	<b>ヒューマンパフォーマンス研究所</b>	高齢者うんどう習慣化教室への参加・補助 (高齢者の普段の生活に取り入れられる運動の指導)
<b>環境</b>	<b>ちば環境再生県民の会</b>	ひまわりの種を蒔き、花を育て収穫して種を取り、ドーナツを揚げて食べ、石鹸をつくる(花が咲いている現場見学と水調べとドーナツづくり)
	<b>環境教育を進める会</b>	水調べ(水の循環の出口である自分たちの流した排水～川まで調べます)
	<b>河南環境美化の会</b>	東松戸ゆいの花公園の花壇づくり活動(除草・維持管理)
	<b>みどりのネットワーク・まつど</b>	樹林地の手入れ作業・観察学習
	<b>メイク松戸ビューティフル</b>	松戸駅周辺の清掃とキャンペーン 松戸花火大会の日にゴミのポイ捨て防止キャンペーンと清掃
<b>保育</b>	<b>松戸市立松飛台保育所</b>	【保育参加】遊び、生活面への援助 【環境整備】所内外の環境づくり(草抜き、木工作业など) 【教材製作】保育で使用する教材や玩具製作(縫製、絵画製作など) 【その他】特技や資格を活かした内容(楽器演奏など)
	<b>松戸市立小金保育所</b>	生活への援助、子どもと一緒に遊ぶ、所内外の環境づくり、教材制作、自分の特技を生かしたもの
	<b>松戸市立北松戸保育所</b>	子どもと一緒に遊ぶ、環境整備及び保育準備作業の手伝い
	<b>(社会福祉法人)松戸南保育園</b>	夏遊びのお手伝い(どろんこ・ボディペインティング・プール遊び) 生活面でのお手伝い(食事・トイレ・着替え)

# 7/14 (Sat) オリエン テーション

7月14日(土)、まつど市民活動サポートセンター多目的ホールで Let's 体験 2007 のオリエンテーションが開かれました。午前中は、これから始まるボランティア体験にむけて、ボランティアってどんなことか、自分はどんな体験をしたいのかをグループワークで考えました。午後は、受け入れ団体のみなさんの話を聞いて、ボランティア体験先を決めました。

## 午前の部

### ①私を表現！出会いに向けて「私って……どんな人？」

はじめてのボランティア体験。これから出会うのは、はじめての人・はじめてのことばかり。そんな時にきちんと自己紹介できるように……。白紙の色紙に趣味や経歴、ペットの名前など「私」を伝えることを自由に描き、グループ内で紹介しました。



### ②聞くことも自己表現「ひとつ伺ってもいいですか？」

「夏休みのボランティア体験」という接点で偶然集まった 140 人。いったいどんな人がきているのかな？ はじめての人と出会ったら相手に関心をもつことが大切です。ひとりひとりの自己紹介にたいしてグループのみんなが質問をしました。



### ③絵日記で伝えます！こんな体験したいんです。

自分がボランティアしているところを想像し、絵日記を書きました。「人とふれあうことがしたい」「子どもといっぱい遊んだ」「笑顔に元気づけられた」。十人十色の絵日記からそれぞれの「やりたいこと」が浮かびあがってきます。

### ④感動の付箋紙ふせんしを貼ろう！

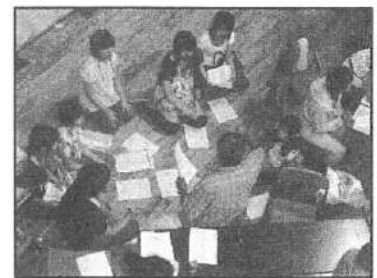
グループ内で絵日記を回し読み。他の人の絵日記を読んで感動したことを付箋紙に書いて貼り付けます。相手の良いところを見つける練習でした。



## 午後の部


### ①活動先を決めよう！

Let's 体験受け入れ団体が参加者のみなさんに活動内容を説明します。「よくわからなかったけど聞いてみたらとっても面白そう……」たくさんのプログラムに目移りします。マッチングシートに記入し団体と約束をして、さあ Let's 体験！





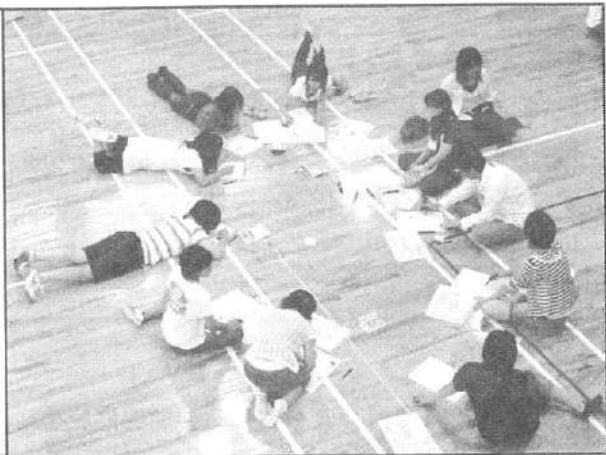
私って何人  
 中央福祉大学1年  
 社会福祉専攻の学生  
 授業室の先生目指して  
 勉強しています。  
 27-70-大野のぞみ

マイペース  


俊敏

私は明るくて  
 空手部のマネージャーを  
 やっています。  
 高校3年生です。

Let's 体験!!  
 2007 オリエンテーション  
 フォトアルバム



# 8/25 (Sat) ふりかえり の 会

8月25日(土)。ひと夏のボランティア体験を終え、再びサポートセンター多目的室に集まりました。参加証授与式のあと、グループに分かれそれぞれの体験を語り合います。それから、「この体験を誰に伝えたいか」を考えて絵葉書を作成しました。

## プログラム

### ①参加証授与式

松戸市のボランティア担当室(現:協働推進課)の小菅室長から、松戸市長発行の参加証がひとりひとりに手渡されました。

### ②こんな体験をしてきたよ!

グループにわかれて簡単な自己紹介のあと、それぞれの体験を発表しあいました。同じ活動先の子とは話が弾み、そうでない子からはいろんなかたちのボランティアがあることを教わりました。

### ③この体験をつたえらしたら……だれ?

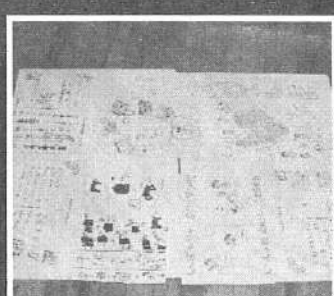
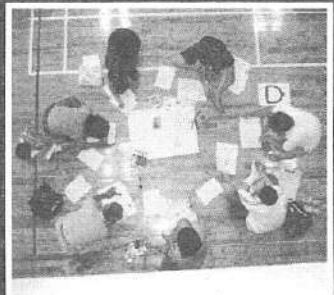
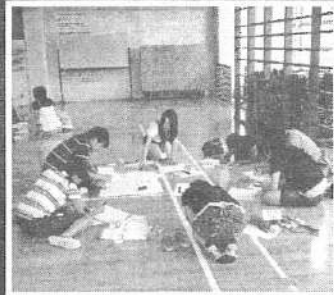
「自分の体験を伝えるとしたら、誰に伝えたい?その理由は?」という質問に、しばらく考えをめぐらせました。両親、兄弟、友だちに学校の先生、時空を超えて未来の自分やボランティアする前の自分、尊敬する人などいろいろな相手があがりました。

### ④絵はがきをつくろう!

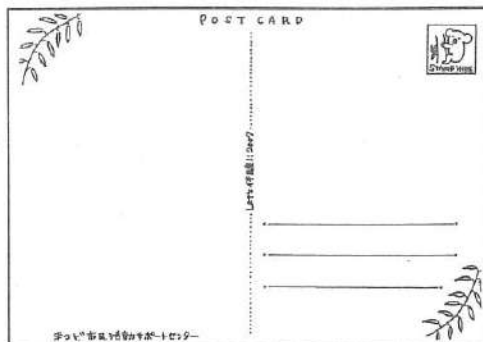
それぞれが選んだ伝えたい人にむけて絵はがきを書きましよう。勢いよく書きはじめる人、入念に下書きをする人、みんなの思いが詰まった力作が仕上がりました。出来た絵はがきをグループ内で発表し両隣の人のステキなところを付箋紙に書いて手渡しました。

### ⑤グループに名前をつけよう!

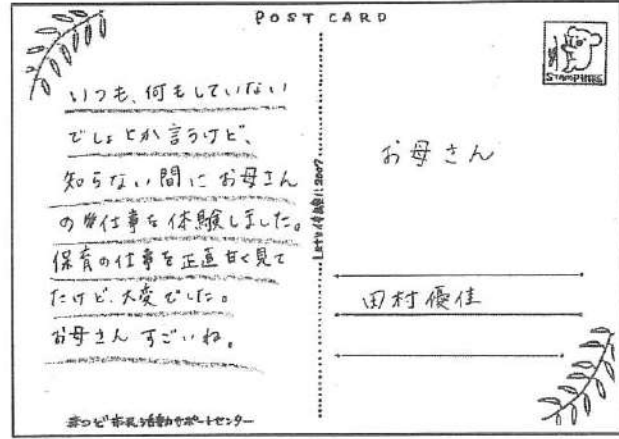
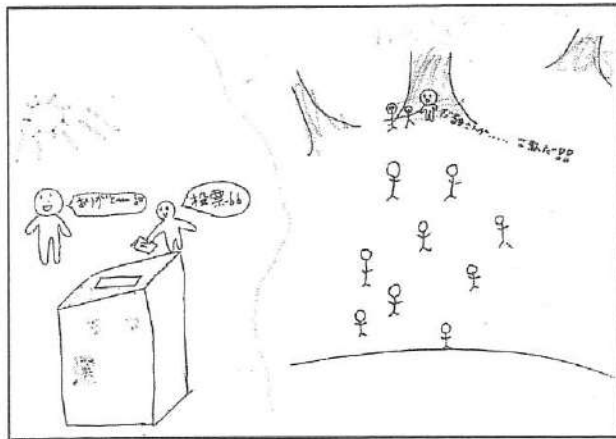
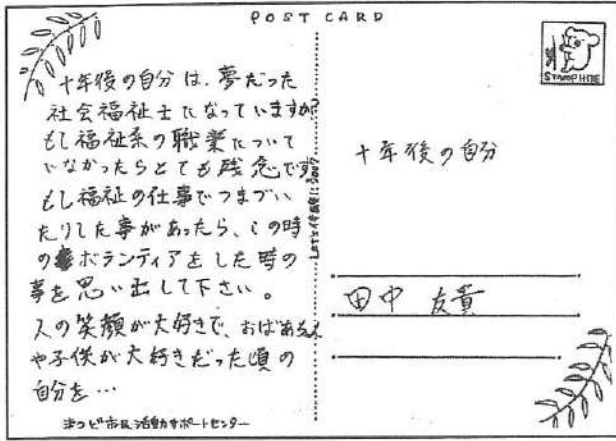
みんなの絵はがきを見て、共通点を探し出しグループに名前をつけました。ちょっとしんどかったけど、お互いのステキなところを見つけることができました。



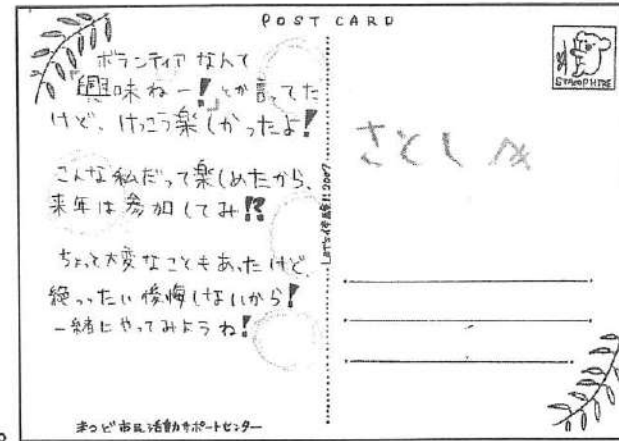
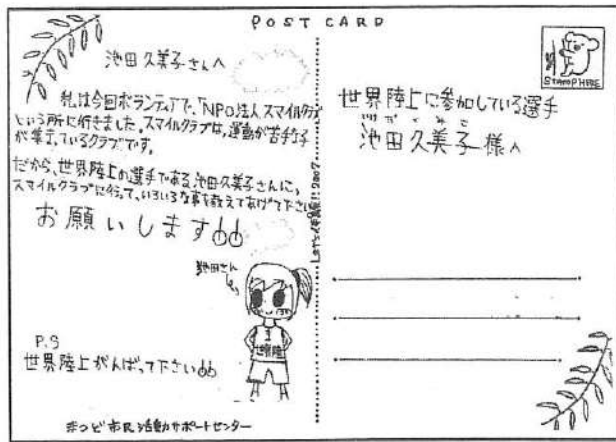
ホントに届くの?



思いはね。



# 絵はがきで伝えよう!



## Let's 体験!!2007 オリエンテーション ファシリテーターふりかえり記録

2007年7月14日(土) 15:30~16:30 まつど市民活動サポートセンター交流サロン

※名前横の点数は自己評価(100点満点)

### 1. ファシリテーター体験セミナー参加者のコメント

Dさん(男・大学生) 50点

- 絵日記は年齢が低いほうが書きやすかったようだ。また、書けない人のフォローが難しく、実際自分が(参加者の立場で)書くように言われてもきつい。

Eさん(女・大学生)

- 思ったより場がしらけてしまった。場の空気を暖めるのがむずかしい。
- 相づちは意識して打つようにしたが、効果があったかどうか・・・

Bさん(女・高校生) 50点

- グループ発表のとき、いまいち盛り上げることがうまくいかなかった。
- 絵日記が描けなくて困っている子をサポートしたが、押しつけっぽくなった。

Mさん(男・専門学校生) 55点

- 遅れてきて途中から参加した子をフォローしていたら、講師の指示を聞き逃した。
- 絵が描けない人が多かった。そういう子にはとりあえず文章を書かせた。
- プログラムの進行が早く迷ってる子に声をかける時間がなかった。プログラムの間に休憩あるとよい。

Sさん(男・大学生) 40点

- 自己表現ができない子が多かった。ファシリテーターからの詳細な説明と促進が必要だと思った。
- パートナーがいなくて心細かった。

Fさん(男・大学生) 72点

- 講師の意図したことが伝わっていなかった
- グループ内で(自分の近くにいる)特定の子ばかりのフォローになってしまった。

※Mさん・Sさんは調査対象者ではない。

## 2. 参加者ではない人のコメント

Tさん（女・高校生） 45点

- ファシリテーターをやるのは初めてだったので、とてもいい経験になった。
- ひとつひとつの細かい動作とかを指示するのが難しい
- 絵日記は簡単な例をあげたほうがよいのでは

Hさん（女・高校生） 50点

- 参加者のほうから次にやることを聞かれたときはうれしかった
- グループの人と話すとき、敬語を使うのか、どのような態度をとるかなど、判断に迷った

Iさん（男・大学生） 55点

- もう少しできるかと思ったが、やってみると以外にできない
- 参加者の中には漠然と参加するだけでなく、明確な意識を持って参加している人もいと

Kさん（男・大学生） 45点

- （人見知りをするので）グループワークで人をまとめるのが苦手だと再確認した
- 自分の作業でいっぱいいっぱいでのサポートがむずかしい

Hさん（男・大学生） 71点

- 初対面の人と話すのが大変だった
- 自分の作業に集中してしまい、講師の指示が聞けなかった
- グループ内が気まずい雰囲気になったときに対応を考えているうちにどんどん時間がたってしまった
- 中学生に対する対応（口の聞き方、態度）がむずかしい

Nさん（男・大学生） 70点

- 準備段階で進行の共有をしっかりとしないと、ファシリテーターの心の余裕がなくなる。



### 3. 実行委員・事務局

小熊 85点

- 中学生～大人までの幅広い年齢層に同じことをやってもらうのはたいへん
- 自己表現ができない子は、言葉が思いつかないか、切り口がわからないのか、どちらかわからない

太田黒 30点

- 待ち時間をつくったり、参加者を集中させることができなかった

### 4. フリーディスカッション

- 去年にくらべたらわかりやすかった
- 作業中に講師に声をかけられるのが不安だった
- 自分の意思を書くことはできたが、参加者同士のコミュニケーションをとることができなかった
- 今日の作業ならば、友達をわける必要がなかったのでは？（午後はまた友達どうしで固まっていたし）
- 「県名クイズ」をやらなかったために、アイスブレイクが完全にはできなかった
- なぜ作業をするのか、参加者に伝わらなかった
- 自己表現なのに、名前を右下に小さく書くのはおかしい
- 絵日記のまわしよみ（書いた人と絵日記がつながらなかった）

ファシリテーター体験セミナー 団体ヒアリングシートまとめ

団体名	松戸市立北小金保育所
Vo 体験者名	A さん
活動日時	8 月 10 日
1. 体験活動のプログラム内容	
9:00～	オリエンテーション
9:15～	3,4,5 才児クラスに入り、一緒に遊び、ブロックなどで子ども達と遊ぶ プール遊びの着替えを手伝う 染紙コーナーにつき、染めあげてきたものをひろげかわかす作業をする
11:00～	プール掃除 職員と共にプールの清掃・片づけを行なう
12:00	終了
2. 活動の様子など印象に残っていること	
<p>3 時間という短い時間でしたので、保育所の様子を理解したり、子どもとのかかわり等も十分では、なかったと思います。</p> <p>プール掃除など C さんと共に一生懸命かかわっていただきました。</p>	

団体名	NPO 法人スマイルクラブ
Vo 体験者名	B さん
活動日時	7 月 26 日
1. 体験活動のプログラム内容	
<p>① 集合、挨拶。根本さんを紹介し、子どもから 2 つ質問を受ける（・何才ですか？ ・好きな食べ物は？）</p> <p>② 準備体操</p> <p>③ ダッシュの練習（壁をたっちして帰ってく！）。後ろむきでのダッシュ・サイドステップなど</p> <p>④ とび箱の練習</p> <p>⑤ ドッジボール</p> <p>⑥ 挨拶・解散</p> <p>⑦ 反省会（スタッフで）</p>	
2. 活動の様子など印象に残っていること	
<p>全体的に明るく子どもに接してくれていたことが印象に残っています。</p> <p>自閉症、ADHD、などいろいろな特徴のある子ども達に初めはとまどっていたようですが、声をかけてくれる子どもと話をしながら少しうちとけてきたようです。反省会では楽しかったと伝えてくれました。</p>	

団体名	馬橋ケアハウスなでしこ/デイサービスなでしこ
Vo 体験者名	Bさん
活動日時	8月28日
<b>1. 体験活動のプログラム内容</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 入浴後のドライヤーがけ</li> <li>● お話相手</li> <li>● ラジオ体操</li> <li>● お手ふき、おやつの分配</li> <li>● レクリエーション (手芸)</li> </ul>	
<b>2. 活動の様子など印象に残っていること</b>	
<p>とても一生懸命、利用者の方とコミュニケーションをとっていました。レクリエーションの時間は利用者さんと一緒に手芸を行いました。会話ははずみ、利用者さんもとても楽しそうでした。</p> <p>一生懸命な意欲がみえ、また、利用者とは多くコミュニケーションをとってもらえたのでよかったですと思います。</p>	

団体名	松戸市立北小金保育所
Vo 体験者名	Cさん
活動日時	8月10日
<b>1. 体験活動のプログラム内容</b>	
<p>9:00～ オリエンテーション</p> <p>9:15～ 1,2才児クラスに入り、一緒に遊ぶ          プール遊びを職員と共に危険のないよう見守り一緒に遊ぶ          着替えの手伝いをする (プール前後)</p> <p>11:00～ プール掃除          職員と共にプールの清掃・片づけを行なう</p> <p>12:00 終了</p>	
<b>2. 活動の様子など印象に残っていること</b>	
<p>3時間という短い時間でしたので、保育所の様子を理解したり、子どもとのかかわり等も十分では、なかったと思います。</p> <p>プール掃除など一生懸命かかわっていただきました。</p>	

団体名	溜の上レディース（緑のネットワーク・まつど）
Vo 体験者名	Dさん
活動日時	8月24日
<b>1. 体験活動のプログラム内容</b>	
<p>10:00 森にて集合 全員で自己紹介 今日の作業の打ち合わせ、担当決め</p> <p>10:15 竹の除伐（竹を伐採し、枝を払い、片付ける）</p> <p>11:15 休憩</p> <p>11:30 作業の続き</p> <p>12:00 終了</p>	
<b>2. 活動の様子など印象に残っていること</b>	
<p>大変素直にこちらの指導に従い、ボランティア体験の中学生とも優しく接しながらの作業体験でした。</p> <p>（※本状送付のメール本文に「当方の記憶力が悪く、青年の印象が特に強くなく、あまり記入すべき点が思い当たりません。お許してください。」と断りあり）</p>	

団体名	NPO 法人こぼていー子ども参画イニシアティブ
体験者名	Eさん
活動日時	8月18日
<b>1. 体験活動のプログラム内容</b>	
<p>「あそぼう会」 毎月定期的に公園で開催している、小学生を対象とした外遊びがおもいっきりできる場づくり。8月18日は、「常盤平あそぼう会」を常盤平・金ヶ作公園にて開催。 小学生と一緒に遊ぶ「お兄さん」「お姉さん」として、中学生がゲームリーダーとして関わり、あそびの説明をしたり、小学生同士、また異年齢間のコミュニケーションを図ったりする。 Eさんは、ゲームの説明を担当した。</p>	
<b>2. 活動の様子など印象に残っていること</b>	
<p>準備の時間や終わった後のまとめで、はきはきとしていた。 Eさんは、すごく子どもと一緒に走って追いかけていたり、子どもと本気で遊んでいた印象。しっぽとり（2チームに分かれて、ズボンなどの後ろに色別のハチマキを入れて、しっぽに見立て、違う色の人やしっぽを取るゲーム）で思いっきりやりあっていて、子ども（小学生）の側も本気で遊んでいた。 Let's2007 ブログに書いてくれていて、嬉しく感じた。</p>	

団体名	ぼっかぼかの会
Vo 体験者名	E さん
活動日時	7月29日
<b>1. 体験活動のプログラム内容</b>	
<p>ふれあい22のホールで、10時～12時。車いすの子ども達とボランティアさん達との交流を目的にした「カローリング」を行いました。「カローリング」とはトリノオリンピックで、脚光を浴びたカーリングの室内フローリング版です。慣れたボランティアさんには、車いすの子ども達の介助を手伝ってもらい、初心者ボランティアさんには、一緒に楽しんでゲームを盛りあげてもらいました。</p> <p>障害があるなしにかかわらず、参加者全員がたのしめた企画でした。</p>	
<b>2. 活動の様子など印象に残っていること</b>	
<p>Eさんは「ぼっかぼかの会」に初めての参加でしたので、車いすの方(20才・女性)とペアを組んでゲームに参加してもらいました。初めての参加でしたが、スムーズにペアの方と打ちとけ、さりげなく相手に気配りをしながら、楽しそうにゲームに参加していました。自然な感じでペアの方と接し、Eさん自身も楽しそうに参加してくれたので、こちらも特別気を使うことなくうれしく思いました。準備・片付けもそつなく手をかしてくれました。</p>	

## Let's 体験!!2007 ふりかえりの会 ファシリテーターふりかえり記録

2007年8月25日(土) 12:00~13:30 まつど市民活動サポートセンター交流サロン

### 1. ファシリテーター体験セミナー受講者のコメント

Bさん(女・高校生)

- (パートナーの)Iさんと二人とも(総合ファシリテーターの)指示がわからなかった。
- 参加者もボランティア体験をしてきているので、前よりも話が振りやすかった。同じところでボランティアをした子同士がいっしょになって友達ができたようだった。
- (参加者の)絵もオリエンテーションにくらべてうまくなった

Dさん(男・大学生)

- オリエンテーションとくらべると少しは緊張しないでできた。
- 作業がおわったあと(次のプログラムに行く前)の間のとりかたが難しい。

Fさん(男・大学生)

- Hくん(パートナー)頼みだった。
- 早く終わったときの沈黙がきつかった。
- オリエンテーションのとき絵を描かなかった子がまた同じグループにいたが、今日は普通に絵を描いていた。(参加者は)みんなそつなくこなしていたようだった。
- 参加者は体験から学んだことを文章で書けていた。ボランティアをやるまえとは考えがかわったみたいだった。

### 2. 参加者ではない人のコメント

Iさん(男・大学生)

- 前よりは雰囲気がいい。
- 間については自分もあまりできなかつた。アドバイスがほしかった。
- 作業はスムーズにいった。

Kさん(男・大学生)

- 前回はパートナーの指示で動いたが、今日は自分からすこし動けた。
- 早く終わった時の間はどのようにしていいかわからなかった。

## ファシリテーター体験セミナー受講者ヒアリングシート

1. ファシリテーター体験セミナーへの参加動機を教えてください。
2. ファシリテーター養成講座(庄嶋さんの講座)で、印象に残っていることを教えてください。
  - 講座に期待したこと
  - 学んだこと
  - 自分に必要だと思ったこと
3. Let's 体験オリエンテーション・ふりかえりの会でファシリテーターを体験して印象に残っていること・学んだことを教えてください。
  - 養成講座のどんなところが役に立ったか
  - 自分の役割をどう理解していたか／達成できたか
  - うまくいったこと／いかなかったこと
  - コミュニケーションの促進のためにどのような工夫をしたか
4. Let's 体験のボランティア体験の活動内容と印象に残っていること・気づいたことを教えてください。
  - どの団体へ行ったか
  - どんな活動をしたか
  - どんな役割をもったか／役割は達成できたか
  - 活動をするうえで大事だと思ったことは何か
  - 自分に足りないと感じたことはあるか
5. セミナー全体(養成講座とLet's 体験)を通して自分のなかで変化があれば教えてください。
  - 体験前と・体験後を比較してどうか
  - 地域や(活動の)テーマについて関心をもったものはあるか
  - セミナーで学んだこと・気づいたことを今後どのように生かしていきたいか。

## ファシリテーター体験セミナー 受講者ヒアリングまとめ

### 1. ファシリテーター体験セミナーへの参加動機を教えてください。

Aさん	先生(実行委員)に「とにかく面白いから参加してごらん」と言われた。それと、ボランティアをやればなにか新しいことがあるんじゃないかと思ってやってみた。
Bさん	Let's 体験!!の申し込みで聞いた。(大学受験の)模試を早受けして、セミナーを受講した。中学・高1のとき、クラスや学年でリーダーをやった。高2・高3は、何もしなかったので、キャリアアップしようと思った。 上に立つと、周りが見えなくなる。下から見た方が、全体が良く見える。下から、上を支えるのが、いい。
Cさん	よくわからないけど、海老名さん(実行委員)に言われたのでとりあえず行ってみようかと思った。
Dさん	千葉大学のY先生からぜひ受けたほうがいい、と聞いて。コミュニケーション能力を鍛えられる、のに関心があったので。昔から人と話すのが苦手で。コミュニケーション能力セミナーが、何をやるのかも興味があった。ファシリテーターという名前は知らなかった。NPOという単語は知っていた。
Eさん	大学1年生のときにLet's 体験に参加し、「喜樂の家」と「はなまるくらぶ」でボランティア体験をした。その後、いいボランティア活動がないかどうかたまにセンターのホームページをチェックしていて、今回のセミナーもホームページで知った。また、今年NPO支援センターちばのインターンシッププログラムのファシリテーター研修を受けてもう少しファシリテーターの研修をうけたかった。 あと、(大学の)サークルなどでも話し合いがうまくいかないのという実感もあった。
Fさん	ファシリテーターという言葉は知っていたが、具体的には知らなかったので興味があった。母の影響だと思う。母がファシリテーターやコーディネーターという言葉の家で使っていた。 ファシリテーターとは話を聞いている限りでは、進行役・導き役であり、そういった話を聞いたり話し合ったりすることは嫌いではなかった。 コミュニケーションはあまり得意ではないので、就職活動の面接で少しでも役に立てばと思った。特に実生活のコミュニケーションに何か(問題がある)というわけではない。



2. ファシリテーター養成講座で、印象に残っていることを教えてください。

<p>Aさん</p>	<p>ファシリテーターは人のために、人を助けることじゃなくて、リーダーのような存在ではないかと思う。</p> <p>コミュニケーションをとるようなゲームをたくさんやった。どのゲームも印象にのこっているが、私だけあれ？ゲームが面白かった。自分は一番若かったが、他の人と話が上手にできるようになった。</p> <p>自分には(コミュニケーション力がない)と思う。言葉がでてこなかったり、言葉の使い方を間違えたり、自分の考えをうまくいえなかったりするとすごく不安になる(日本語だけじゃなくてスペイン語のときも)</p> <p>(講座を受講して)人のことを前より考えるようになった気がする。例えば食べ物を見るとこれは何人くらいで食べることができるだろうかということを考える。周りの人を意識するようになった。</p> <p>あと敬語がうまく話せるようになった。</p>
<p>Bさん</p>	<p>(講座に期待したことは?)講座は座学で、勉強すると思っていた。期待していたものは、スキル。</p> <p>(学んだことは?)初対面の人ばかりで、寸劇の意味がわからなかった。大学生のファシリテーターの仕方を見たり、庄島さんの進め方を見たりして、真似してみた。意見を積極的に言おうと努力した。自分は、ホントは、人見知りだ。講座の雰囲気がとてもよかった。色々な年代の人が入っているのが良かった。</p> <p>(自分に必要だと思ったことは?)「引き出す力」</p>
<p>Cさん</p>	<p>(講座に参加して何がわかったか?)あまりよくわからない。</p> <p>(講座を受講して)積極的に自分の意見が言えるようになった。ま前は「はい、はい」と人の話を聞くだけだったけど、いまは、自分はこう思うと言う。</p>
<p>Dさん</p>	<p>住んでいるところで共通点を見つけて、という手法が、話の取っ掛かりを見つける手法としてすごいと思った。生き物のゲーム(は)他人の言葉で自分を知ることがすごい。</p> <p>ファシリテーターとして意見をまとめる練習をした。初対面の人同士だったので、意見を引き出すのが難しかった。特に寸劇作りが難しかった。幼稚園でボランティアを押し付けるのはいけない、という劇をやった。実演は恥ずかしかった。でもやっているときは楽しい。</p> <p>食べ物のこだわりを聞いて発表、はうまくできた。</p> <p>(講座に期待したことは?)特にイメージしていたことはなかったので、収穫だけあった。</p> <p>(学んだことは?)演じることで、伝えたいことが理解できるのが実感できた。(それと)知らない人同士を結びつけるやり方。何かあれば、積極的に役立てたいなと思えた。</p>
<p>Eさん</p>	<p>あいづちをうつゲーム。単純にうなずかれないのがこんなに辛いとはと感じた。一对一の場合はふつうにうなずくが、一对多の場面だとみんながうなずかないことによく気づくようになった。</p> <p>それと、劇をつくる過程が楽しかった。みんながそれぞれ自分のボランティア体験をはなし、意見をききながらまとめていくところ。</p> <p>ファシリテーターは、自分から笑顔で雰囲気づくりをするのが大切だと思った。</p>

<p>Fさん</p>	<p>寸劇と14日前半のプログラムづくりを行った。一回目に参加していないので不安だった。一回目に参加できればよかった。何をやるかわかっていなかったなので、いきなり寸劇でとまどった。14日のプログラムをつくるのは面白かった。自分は一度こうだときめたらなかなか他の考え方ができないので、いろいろな意見がでてきて「なるほど」と思った。</p> <p>プログラムづくりでは、ファシリテーター(役の受講者)の様子をみていてこれはむしろかしいだろうなと感じた。自分は意見を出す側だったので、体験してみればどこが難しいのかわかったかもしれない。</p> <p>学校とかの話合いでは議長がいて、議長を中心に話をすすめていく。議題・意見・多数決というふうに。それは淡白な印象を受ける。ファシリテーターのようにみちびくものではない。ファシリテーターは議長より参加者に近い立場にいると思う。</p>
------------	--

3. Let's 体験のオリエンテーション・ふりかえりの会でファシリテーターを体験して印象にのこっていることを・学んだことを教えてください。

A さん	<p>年下ばかりだったがそれでも緊張した。だらしななお兄さんに見られたら嫌だった。年下ばかりだったが、自分はこのなかのリーダーなのかと本当に不安だった。ものをくばるときに手が震えた。女の子が多かったが、女の子からうまく意見をひきだすことができなかった。参加者のみんなも緊張してたと思うけれども、質問はうまくさせた</p>
B さん	<p>&lt;オリエンテーション&gt;</p> <p>オリエンテーションのイメージが(自分が思っていたのと)違っていた。当日の雰囲気は良かった。当日の心の準備が大変だった。絵を描かせるのが難しい。絵をかけない子のフォローしたけど、もっとそれ以上のことがやりたかった。みんなの意見を引き出しながら、意見交換できたら良かった。</p> <p>(うまくいったこと/いかなかったことは?)戸惑っているカンジの中 3 の女の子をフォローしたけど...うまくいったか不安だった。ふりかえりの会では、スラスラ描いていたし、話もできたので、結果として、うまくいったのだと思う。</p> <p>(どのような工夫をしたか?)相づち上手 聞き出し上手</p> <p>&lt;ふりかえりの会&gt;</p> <p>(講座で役に立ったことは?)Let's 体験にいきなり、1人で参加するのは不安だが、事前に講座に参加して、役割もあったし、仲間もいてよかった。</p> <p>(うまくいったこと/いかなかったことは?)普段の自分になってしまい、ファシリテーターにはなれなかった。</p> <p>(どのような工夫をしたか) 相づちを打つことで、最初の入り口の関係を作る。</p> <p>自分から進んで関係を作ることは、普段からやっている。自分が素敵だなあと思う人になりたい。</p> <p>自分が好きな人(=)話して楽しいし、安心ができる人(=)相づちをうってくれる人</p>
C さん	<p>中学生に教えることができている気分だった。リーダーなのかってところは私も不安だった。でも後から遅れてきた子がいてちゃんとうまく説明ができた。恥ずかしがらずにみんなが意見をだしやすい雰囲気になるよう笑顔でいるようがんばった。</p>

<p><b>Dさん</b></p>	<p>&lt;オリエンテーション&gt;</p> <p>(自分の役割について)全体に伝えることを意識した。雰囲気づくり。絵を描くときに、どう言うか。自分がかくの四苦八苦した。やりながら考えてると「あー、こんな絵はやばいなー」って思って、でも参加者もそう感じてはるはずなので、それを、恥を捨てて見せることで、引き出そうとした。成功はしなかったけど。</p> <p>(うまくいったこと/いかなかったことは?) 難しかった点。まったく初対面の相手と話したこと。参加者は自分たちよりももっと緊張していて、講座はみんながコミュニケーションを鍛えようと来てたが、本番は、参加者は知らない人と集められていた。参加者が緊張していたのを感じちゃって、こっちも緊張した。講座の体験を生かそうと思ってもなかなか。</p> <p>(どのような工夫をしたか?) まず、自分は笑顔で話しかける。相手に接しやすいように、なるべく笑顔。1人1人を引き出す。がんばって聞く。(ポイント?) 特に持ってなかった。そのとき一生懸命考えて。いろいろ共感する。</p> <p>&lt;振り返り&gt;</p> <p>講座でファシリテーションを学んだ、という油断があった感じで、「間(ま)」がむずかしかった。早く進めることを意識してやっていて、その「間」で、ひとりひとりからの引き出しをちゃんとやるのが大変だった。あせりが先行した。</p> <p>とくに前のオリエンテーションとの違いは感じなかった。でも「前にやったから」という経験は違いだと思う。</p> <p>(どのような工夫をしたか?) 沈黙の間に、小熊(実行委員)さんが活動の話を知っているのを見て参考にして、例えばある子の絵葉書の相手が友達だったので、友達のなかでボランティアは広まっているのか聞いてみた。</p> <p>引き出していけば、全体の中で広がった感じ。</p>
<p><b>Eさん</b></p>	<p>ファシリテーターとして、話を均等にふること、参加者が話しやすい質問をすることをこころがけた。うなずいて聞くとか、笑顔でいるとか、基本的なことはちゃんとやろうと思った。「聞く」ことについてはちゃんとできたと思う。ただ、ひととおりの、みんなが話し終わったあとの場つなぎはなにもできずつらかった。</p> <p>オリエンテーションのときは作業しながらにも言えなかったけど、ふりかえりの会ときは参加者が描いている途中の絵をみて感想をはさむとかのフォローができた。</p> <p>ふりかえりの会は行こうかどうか迷ったけど、行ってよかったと思う。もしオリエンテーションのままやめていたら、(ワークショップは)ああいう暗いものだったことしかわからなかったと思う。</p>

Fさん

一応ファシリテーターとして各グループのリーダー的役割ではいった。参加者は中高生が中心でうまくフォローができればいいと思ったが、不安のほうが大きかった。

やってみると二人くらい書いてくれない子がいて、その子達につきっきりになり全員をみることができなかった。

全体としてどこにいても俺より先輩がいるので自分のできることをやればいいと思う。難しかった。良かったのか悪かったのかなんとも言えない。

(講座で役に立ったことは?) 講座は8日しかでていないので「これがためになった」といえるところはない。講座ではファシリテーターはみんなの意見を聞いて導き手になる役割だったが、14日(25日も)にやったことは個人作業を助けることだったので講座とは違うものだと思う。特にコミュニケーションを通して一体感を感じることがなかった。白地図(県名いくつかけるかな)がなかったのが残念だった。

(工夫したことは?) 14日はできる子、できない子にわかれたので、できない子を中心にみた。25日は相方に助けられた。14日は1対1のフォローだったが、25日は全体に対してのフォローで別のむつかしさがあつた。できていれば注意深くみることもないと思うが、グループのなかに間ができるとそのフォローがむずかしい。やっぱり俺はカタイなと思った。

4. Let's 体験のボランティア体験の活動内容と印象に残っていること・気づいたことを教えてください

<p>A さん</p>	<p>&lt;北小金保育所&gt;</p> <p>子どもが好きだったので保育園でボランティア体験にいった。(Cさんは以前職業体験で保育園経験あり、Aさんはボランティア自体はじめて)。</p> <p>1〜2才くらいのクラスだった。子どもと遊んだり、服を着替えさせたりした。遊びは本を読んだり、絵を描いたり歌ったりした。ほめるだけじゃなくてケンカしたら叱る。でも相手が子どもで泣いたら困るのであまり叱れなかった。</p> <p>なるべく子どもと同じ目線になるようにひざ立ちとかをした。</p> <p>最初子ども達も緊張してたけど、そのうち「お兄ちゃん、お姉ちゃん」といわれてほっとした。</p> <p>去年は指示まちだったけど今年は先生にやることを自分から積極的に聞いてコミュニケーションをとりながら動くことができた。</p>
<p>B さん</p>	<p>&lt;デイサービスなでしこ&gt;</p> <p>ドライヤーがけ、話し相手、ラジオ体操、特に何をやったということはない。</p> <p>受験のときに老年介護について書きたかったが、その材料は手に入らなかった。施設は忙しくて話が聞けなかった。</p> <p>(活動をする上で大事だと思ったことは)デイサービスは、会話が主体になって、ボギャブラリーが少ないと感じた。打ち解ければ、話ができた。会話をつなぐ技術、相づちが必要…無意識のうちに使っていた。</p> <p>(相づちの大切さと子どものころの体験についてのエピソード)</p> <p>小学5年生のとき、低学年との交流で、小学2年生のクラスに行った。ある女の子が、生まれる前に亡くなったことを話した。その子が描いた絵をみせてくれた。その話を担任の先生に話したのだけど、先生は、ふ〜んという感じで冷淡だった。</p>
	<p>&lt;スマイルクラブ&gt;</p> <p>跳び箱の順番を並ばせる係り。ゲームの線係。どんな役割をもったか/役割は達成できたか「走るのが好き」といったら、いろいろ、話しかけられた。</p> <p>(活動をするうえで大事だと思ったことは)終わった後、ふりかえりで、一人ひとりのことを見ていた。施設管理のことやスタッフの対応について話し合った。スタッフの人と話ができてよかった。</p> <p>(自分に足りないと感じたことは?)身体で言葉(気持ち)を表現。障害のある人を受け入れるのは難しい。よだれがついたらいやだと思った。</p> <p>(デイサービスと比較してどうだったか)高齢者の対応のボランティアを選んだ。スマイルクラブでは、新しい体験ができなかった。</p>

<p><b>Cさん</b></p>	<p>&lt;北小金保育所&gt;</p> <p>子どもが好きだったので保育園でボランティア体験にいった。(Cさんは以前職業体験で保育園経験あり、Aさんはボランティア自体はじめて)。</p> <p>4才~5才くらいのわりと大きい子が中心のクラスでその先生のお手伝いをした。たとえば、先生が子どもたちを並ばせようとしたらまず自分が並ぶとかそういう先生がいったことの手本になる。先生の目のとどかないところにいる子をみていたりする。</p> <p>笑顔で思いっきり歌ったり手遊びをしたりプールに入るときの着替えを手伝いや準備運動をした。最後にみんなで掃除をした。</p> <p>子どもを注意できなかった。先生はどなるじゃなくてきつめに言う。でも自分は人の子だし泣いたら困るので叱れなかった。「そんなことしたらコチョコチョするよ」といっただけだった。子ども達にとってはボランティアがくるのが普通みたいだった。日本の保育園は先生も子どももみんな仲が良くて楽しんでもるようにみえた。</p>
<p><b>Dさん</b></p>	<p>&lt;河南環境美化の会&gt;</p> <p>松戸ゆいの花公園の(花壇)整備の予定だったが、雨で中止になったので、ミーティングに参加した。公園自体が新しく、ミーティングでは、ニュースを見て考えたり、どの花を植え替えるなどの話をしたりしていた。</p> <p>(役割は?)初めてだったのと、自分が内容を知らないので、全然話には入れなかった。</p> <p>その後、ちょっと晴れて、どの花を植え替えるかを考えながら花壇で花を見た。前の話を知らないから、見ているだけ。(質問はしたか?)聞いてはみた。でも、きつかった。来てた人は常連さんばかりで、他のLet's体験!!の人はいなかったと思う。その後枯れた花びらを摘みとる作業を20分ほどやり、その後お菓子を食べながら話をした。</p> <p>(団体が何をやりたいかはわかった?)わかった。</p>

	<p>&lt;緑のネットワーク・まつど(溜ノ上の森)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● どんな活動をしたか</li> </ul> <p>森の状態を見る。森を一周。周辺で家とつながっていると、枝がのびて住宅から苦情が来るので、剪定。竹のエリアから外にのびてしまった竹をのこぎりで切る。切らないとみんな竹になってしまう。</p> <p>(他の参加者は?)子ども。小学生か中学生か。小学生のような印象。その子たちとかかわりながら作業した。基本は「溜ノ上レディース」の人たちが教えていた。子ども達は積極的で、竹を切る人?と聞くと「僕がやる!」といった感じ。</p> <p>(竹を切ったあとは)葉を棒で打ち落としていく。子ども達と3人でやった。切った枝をまとめる場所があるのが目立ってきて苦情がきたため、目立たないように切って小さくして運ぶ。中途半端にになって切りづらかった。(個人作業?みんなで?)わりとみんなでわいわいと。</p> <p>(活動の印象は?)今まで森の整備をやったことがなかった。近隣住民との折り合い、情報誌を出して住民に伝えてることを知り、周りの人のことも考えないといけないというのが勉強になった。興味をもったのは今年からで、今までは森を見ても管理している人の事は知らなかった。</p> <p>(活動での役割は)あんまり気にしなかった。活動を教えてもらって、言われたらやるといったイメージ。子ども達とは、一緒にいる子だから話したいな、と思った。もしかしたら、無意識に関係性をもとうとしてたかも。子どもから言われた虫の名前の話は全然わからなかった。昔だったら全然ダメだったかも。(自分から話しかけたか?)けっこう話しかけた。</p> <p>(活動をするうえで大事だと思ったことは)レディースと話して「楽しい」が大事と思った。楽しくなければ続かない。人に来てもらったときも、楽しくすることを考えてる。</p> <p>(自分に足りないと思ったこと)けっこう受身だと思った。指令があつて遂行するタイプなので、指示を待つのが多かった。何をやるのか、あんまりわからない状況だったので、あとは子どもと話していた。</p>
<p>Eさん</p>	<p>&lt;こばてい&gt;&lt;ぼっかぼかの会&gt;</p> <p>こばていでは、あそぼう会で子どもと遊ぶ。それとゲームを説明する役も一回だけやった。ぼかぼかの会ではカーリングをやった。ぼっかぼかの会はお母さんたちがすごく元気でびっくりした。夜間中学校では、夜中の活動について説明をうけたり、なんでもスペースのようなところでお話をした。</p> <p>どこの団体でも誰かにサービスをするというよりは、いっしょにやる、いっしょに楽しむというふうだった。こばていでは子どもに「また次来るんだよね。何かの様子を教えて」と言われ、多少はなじめたのかなど。</p> <p>どこの団体にも継続してボランティアにきている人がけっこういた。それは自分にはないので、最初はやっぱりなじめない。自分以外は知り合いと考えると、まったく知らない人たちが集まったところにいるので。</p>



5. セミナー全体（養成講座と Let's 体験）を通して自分のなかで変化があれば教えてください。

A さん	<p>ファシリテーター養成講座を受けてからボランティアをやるほうが興味をもつんじゃないか。来年もやりたい。</p> <p>（養成講座でやったゲームを）外国人の子どものための勉強会でゲームをまかされたので、額に動物の名前を書いた紙をはるやつとかいろいろやってみた。みんなたのしんでくれた。</p>
B さん	<p>（体験前と後を比較して）ファシリテーター養成講座を受けて自分のだめなところが具体的に見えてきた。（ファシリテーターとして参加者から話を引き出すときに、自分から）具体的に例を出しすぎても良くない。いろんな年齢の人に対応したい。話のストックが大事。</p> <p>（地域や活動のテーマについて関心をもったものはあるか？）高齢者の対応、年齢の高い人たちに接するボランティア。障害のある人への対応、自分の気持ち</p> <p>小さい子に関わることは、習い事とかで慣れていた。その意味で新しい発見は少ないので、高齢者の方に接するボランティアを学びたい。もっと、視野が広がって、リスク・施設に目を配れるようになりたい。</p>
C さん	<p>（養成講座でやったゲームを）外国人の子どものための勉強会でゲームをまかされたので、額に動物の名前を書いた紙をはるやつとかいろいろやってみた。みんなたのしんでくれた。</p>
D さん	<p>（体験前と後を比較して）初対面の人と話せるようになった。セミナーで、知らない人と会ったその日のうちに話すのをやったので、1日しかなくてもがんばれば話せるようになる、というよさを感じたから。</p> <p>（松戸でボランティア体験をしてみてどうだったか？）どういうボランティアを自分の地域でしてるんだろう？と関心をもった。印西（D さんの現住所）で調べてみた。公民館で何個か見つけた。ネットで見て、ボランティアセンターの存在も見た。</p> <p>（環境というテーマについては）漠然としていたのが具体的になった。森を守るだけではなく、周り、そこに住んでいる人のことも考えないと、と知った。（他の分野に興味は？）外国人の子どもの勉強会。外国人の子どもの支援も興味をもった。</p> <p>共通点を見つけて、話しやすくするのは、いろんな場面で使えるな、と思う。共通点を見つけることが、コミュニケーションの第一歩。（ファシリテーターのイメージは）単なるまとめ役ではなく、雰囲気づくり。根底を作り出す。基盤。</p>
E さん	<p>今回というよりはおとしの Let's 体験に参加して、身近なところにボランティア団体や障害をもった子がいることに気づいた。（ボランティア体験に参加して）松戸市にこれだけの団体があって、いろいろな活動があることを知った。こばていのはちみつ選挙には参加してみたかった。障害、夜中、いじめなどにも興味を持った。</p>

<p><b>Fさん</b></p>	<p>(活動をおして)教えることの難しさがわかった。いかに効率のいい教え方ができるか。</p> <p>また、自分はもうちょっとくだけでもいいのかなと思った。同じ目線で。もうちょっとくだけられたら。子どもの目線から見ると面白くない男に見られるのかなど。</p> <p>人によって対応の仕方が違う、よりそい方がちがうことを実感した。</p> <p>(セミナー全体を通して)とくに成長したという実感はない。25日はとくに自分はなにもしないの。まわりをよく見ることが大切だと思うようになった。できない、困ってる人がいないかと注意する点を大事にしたい。</p> <p>自分にとって一番理想なのはもうちょっとくだけることだが、ちょっとやそつとではできないことも良く分かっている。</p> <p>今後も同じような機会があればかかわることができると思う。もうちょっといろんなジャンルに参加すれば変わったかもしれない。</p>
-------------------	--

### ファシリテーター体験セミナー受講者レポート1 Dさん

私はファシリテーター体験セミナーの前に「ファシリテーターはコミュニケーションの手助けをする役目」という風に聞いていたが、ファシリテーターがどういうものであるかについて、具体的に「こういうものだ!」というイメージが頭の中になかった。そのため、セミナーが始まるまではどういふことをするのかの想像も出来ていなかったので少し不安だった。

セミナーの初日、「最寄り駅が近い人同士でグループを作る」というゲームや、「相手が話しているのを聞きながら、絶対に相づちをうたない」というゲームが特に印象に残った。「最寄り駅が近い人同士でグループを作る」というゲームでは、共通点を見つけることで話すきっかけを作ると知らない人とでも話をしやすくなるということを実感した。ゲームの説明をうけて、それをやってみるように言われた時は「なんでこんなことをするのかな?」と思ってしまったが、実際に周りの人とも話しやすくなり自分の緊張も解けたので本当にすごいと思った。そしてもう一つ、簡単なゲームで緊張が解けてしまうのが不思議にも思えた。もう一つの「相手が話しているのを聞きながら、自分は相づちをうたない」というゲームでは、普段何気なくしていた相づちがどれだけ重要なものであるかを実感した。説明を聞いた時点では簡単だろうと思っていたのだが、実際にやってみると面と向かって相手の話を聞きながら相づちをうたないようにするのは予想以上に難しかった。相手が自分の方を向いて話しているので、何度も相づちをしそうになってしまつて心の中でひどく焦っていた。そしてまた、自分が話す側になつてもとても話しにくかった。相手が自分の話を理解しているのかどうかは寂然としないだけでなく、話のリズムを取りにくくて何度も話が止まってしまうようになるからである。この2つのゲームはどちらも簡単なものであるのに、コミュニケーションをとる上で大切なことを教えてくれた。私にとってこの2つが特に印象に残っている。

2日目のことで記憶に残っているのは、グループでのボランティアについての考えを寸劇にまとめたことと、その寸劇の感想を皆で言い合つたことである。自分の考えを劇として演じることで、改めて見直すことが出来たことがとても有意義だった。そして、それ以上に有意義だと思ったのは寸劇の後の感想を言い合つたことである。特に自分より年齢が上の人の話を聞けたことが自分にとっての収穫となつた。その中で特に印象に残っているのは、「昔は『ボランティア』という概念はなく、人助けをするのは当たり前のことだった」という話である。この話から私は、ボランティアという概念が時代の変遷による人々の価値観の変化の産物ではないかと思うようになった。

3日目とLet's体験参加証授賞式のときのワークショップの運営では、ファシリテーターの難しさを実感した。どちらの日も、初対面の人が集まつたグループの中で黙り込んでしまわないような雰囲気作りを心がけたり、発言者から言葉を引き出したりすること、そして、絵日記などの絵を描くように促すことが特に難しかった。

全体的に、セミナーの時に学んだことが印象に残っている。そしてこれらの経験から、ファシリテーターというものを意識していこうと思うようになった。

ファシリテーター体験セミナーふりかえりの会 実施結果

日時：2007年9月30日（日）13:30～15:30

場所：まつど市民活動サポートセンター

受講者：5名（うち調査対象者4名）

実行委員会：犬塚・海老名 事務局：小山・太田黒

Q1.NPO 市民活動団体の人たちは（自分から見て）どのように見えたか？

→元データは受講者が付箋紙に書いたもの

Q2.なぜ彼らは活動をしているのだろうか？

→元データは受講者が口頭で発表したものを他の受講者が書きとったもの

Cさん（北小金保育所）

質問 No.	回答
Q1	いくらつかれていても、子ども達に笑顔で接していた。 多人数の子ども達の面倒を見たりするからスゴイと思った。 叱り方がうまい！ 最初は怖いイメージだったけど、みんなやさしかった。 楽しそうに仕事をしているから自分もいい気分になった。
Q2	子どもが好きだから、普通の仕事よりは楽しいと思う。 子どもたちの笑顔で自分も幸せな気分になる。 子どもたちがたくさんいるので一人ひとりの個性と性格をみなくてはいけないのが一番大変だと思う。

Aさん（北小金保育所）

質問 No.	回答
Q1	保育所の先生①園長先生はあってからやさしそうな人だなと思いました。子どもがめっちゃ好きそうな人に見えました。 保育所の先生②一緒のクラスになった先生。先生はみんなのことを自分の子どものようなあつかいをしてびっくりしました。
Q2	子どもが好きという思いもあると思うが、実はもっと深いことを考えているんじゃないかと思う。少子高齢化社会や子どもが住みやすい国ということについて考えた時に、国の将来のために子どもがたくさんいたほうがいいとか、そこまで考えているんじゃないか。

B さん (NPO 法人スマイルクラブ)

質問 No.	回答
Q1	障害を持っている子だからこそ、いけないことをしたらちゃんと怒っていた。 病気対策・健康状態にまで気を配っていた。 ほぼ常に笑顔だった。
Q2	(スマイルクラブは) 看護大学の先生がやっている団体。看護協会が「ボランティアしたほうがいい」という流れになって、その中で自分ができることをやろうとしているのではないかと。(もっとも) 実際のところはわからないが、そういう人がやっているほうが安心する。
他の受講者の意見・質問	(団体の人は) 「子ども」を対象にした活動をしたいのか、「ボランティア」をしたいのかどっちか。 (B さんの回答) どっちかはわからないけど、お偉いさんが「ボラせよ」といってる状況があつてのことと思う。が、やっている人たちは子どもがほんとうに好きなので、子どもが先かもしれない。

B さん (馬橋ケアハウスなでしこ/デイサービスなでしこ)

質問 No.	回答
Q1	(利用者) 一人ひとりの要求に答えられていた。 話し相手上手。 (職員の人は態度を) 作ってない。割と“素”でやってたと思う。
Q2	

F さん (アルトの会)

質問 No.	回答
Q1	子ども達との信頼関係が強い・大きいと思った。 子どもたちの対応になれていると思った。 子どもたちの自主性を重んじるどころ(教え方)が多くあった。すごい。
Q2	子どものための居場所づくり。子供が安心して遊べる空間が必要だと考えている。団体の人は監督する立場の目線だと思う。 ボランティア団体をやっているうちに、「そうしなければならない」というような義務感が生まれてきたのではないかと。

## ファシリテーター体験セミナー 団体意見交換会 実施結果

日時：2007年10月21日（日）14:30～16:30

場所：女性センターゆうまつど

受け入れ団体：4団体 実行委員：犬塚、大越 事務局：太田黒

### □受け入れ団体（出席者）

- ・NPO 法人 外国人の子どものための勉強会（海老名みさ子）
- ・NPO 法人 こばてい（小熊浩典）
- ・十代の子どもの居場所をつくる アルトの会（小山淳子）
- ・NPO 法人 スマイルクラブ

### 1. 各団体の活動の報告

#### ①NPO 法人 外国人の子どものための勉強会

夏休み集中勉強会。計5日間で、うち3日は夏休みの宿題、残りは日本語で遊ぶ（紙芝居の読み方をサポートするなど）。ボランティアは、子どもたちは日本語がわからないと思ってくるが、普通に話していることを知って逆に刺激をうけていた。

また、(Let's 体験!!2007 とは) 別のプログラムで囲碁教室を実施し、(セミナー受講者の) AとCが参加し、子ども達とセミナーで習ったゲームをやった。

#### ②NPO 法人 こばてい

3つのプログラムを用意。人間てんぷらは企画から実施までを担当。はちみつ選挙は東京の呼びかけ、結果の集計・整理を担当。あそぼう会は子どもたちとおもいっきり遊ぶ、また、リーダーシップを発揮してもらった。

#### ③NPO 法人 十代の子どもの居場所をつくる アルトの会

子どもたちが「わかる」仕組みを体感しながら学ぶ学習サポートで、子どもと向き合いながらはげまして支援する役割。しんどかったらしく、帰るときは子どももボランティアもへとへとだった。

#### ④NPO 法人 スマイルクラブ

運動が苦手な子の教室。知的障害の子や自閉症の子もいる。子どもを誘い出したり、じつとさせたり、先生の指示を助ける役割。一口に障害児といってもさまざまなので、一日しか体験しなかった子などは、かかわりかたが難しい。

子どもへの対応や、当日の服装などは、事前に注意をしている。

## 2. 若者の「いいところ」と「気になるところ」

受け入れ団体に若者一般について「いいところ」と「気になるところ」を述べてもらった。

### ①いいところ

どの団体からも、積極的にかかわってくれる、(子どもを対象にした活動の場合) 少し年上の立場からアドバイスをしてくれる、(体験時に) 充実した時間がすごければ継続参加をする、まじめ、などの意見が出された。

#### <個別の意見>

チャレンジ精神あり (きっかけ次第で)

スタッフに積極的に声をかけてくれる

走れる。本気で

意欲的に動いてくれた

親でもない、同学年でもない存在

自分の体験と重ね合わせて考えることができる

先輩として「〇〇だ」と経験談をどんどん話す

「もう一年(活動を)早く知ってたら・・・」と言ってくれた

役に立てたと自覚すると追加を申し出る

(活動が)面白かったら追加して参加を決める

素直

いわれたこと指示されたことに忠実

とてもまじめ

### ②気になるところ

団体ごとに違った答えがでたが、社会性のなさ、主体性のなさが共通点として挙げられる。

#### <個別の意見>

- 参加すると決めたが、欠席
- 全員でないが受験のため!?という感じの子もいる
- マニュアルがないと不安がる
- わからないことを追求しようとしないう。すぐ答えを求め
- わかることのためには五感が必要なんだけど・・・感性的な部分が少ない
- 友達同士(で体験にくる場合)が多い?(年齢が低いほど)

### 3. 若者が参加しやすいようにどのような工夫をプログラムに加えているか

#### <NPO 法人 スマイルクラブ>

知的障害や自閉症の子らと接することによって、ボランティアが学ぶことが多い。「喜ばれる」ことの喜びや、役割を与えられるから。過去には、引きこもりの子が、ボランティアを続けて社会復帰をとげた例などもある。また、教員を目指す若者の研修の場にもなる。

こういった効果は副次的なものだが、若者がボランティアとして一緒に本気になって走ったりしてくれるので、障害児にとってもプラスになっている。

#### <NPO 法人 こばてい>

ボランティアにきた若者の、年齢や特技などを見て、役割を配分する。共通プログラムのなかで一人一人にあった部分をつくるよう考え、それからもれた部分を受け入れスタッフがカバーするようにしている。また、ボランティアに感想シートを書いてもらうようにしたら、プログラムのふりかえりや、活動を外へ伝えるためのツールとして活用することができた。

#### <十代の子どもの居場所をつくる アルトの会>

子どもが本を「体で読む」音読プログラムを昨年までは実施していた。子ども達の音読をどのように評価するか、その軸をボランティアひとりひとりがもつことは難しく、自分にあたえられた役割を十分にこなすことができなかった。

#### <NPO 法人 外国人の子どものための勉強会>

特に意識したことがなく、自分たちの活動を知ってもらいたいという思いで実施してきた。ボランティアを申し込む人達のなかには、「英語ができなくちゃだめなのか」など、松戸に住む外国人の事情をしらない人が多いので、そう思いこんでくるとびっくりすることになる。

### 4. 受け入れ団体と実行委員会の意見交換

- サポートセンターの支援のもと、ボランティア・マネジメントの考え方を普及させる必要があるのではないか。
- 体験活動を気づきや思い出にとどまらず、その活動を継続できるようつなげていくことも視野に入れて考えることが大切。
- 対象に応じて団体からの説明の仕方も変えると良い。たとえば、大学生に対してはミッションを話すと効果的だが、中学生にはピンとこない。
- スマイルクラブやこばていでは、ボランティア体験参加者が、スタッフに成長していく事例がある。これは地域の教育力と呼べるのではないか。
- プログラムの内容や、募集、説明の各段階でコミュニケーションを意識する。



- 必死になってやる、熱中、を体験することに体験活動の意味があるのではないか。
- ボランティアに対し、宣伝し、ひきすけるという視点をわすれがち。つねに魅力をつけていくプログラムというふうに考える。
- 地域の中にある暗黙のかかわりというのを伝えていきたい。

**NPO や地域をフィールドにした  
青少年のコミュニケーション力を育む体験活動に関する調査研究事業 報告会  
実施結果**

日時	11月25日(日) 10:00~12:00
会場	聖徳大学 10号館 14階
参加人数	13人(うち受講者3名)
主催	ファシリテーター体験セミナー実行委員会
共催	まつど市民活動サポートセンター
協力	聖徳大学生涯学習研究所・松戸市
プログラム	<p>①実行委員紹介</p> <p>②基調報告(犬塚裕雅) 15分</p> <p>③パネルディスカッション 90分</p> <p>パネラー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海老名みさ子(NPO 法人外国人の子どものための勉強会)</li> <li>・小野寺達也(受講者・千葉大学学生)</li> <li>・庄嶋孝弘(市民社会パートナーズ)</li> <li>・齊藤ゆか(聖徳大学生涯学習研究所) 兼コーディネーター</li> </ul>

NPO・市民活動だからできること

# ワカモノと地域のイイ関係!

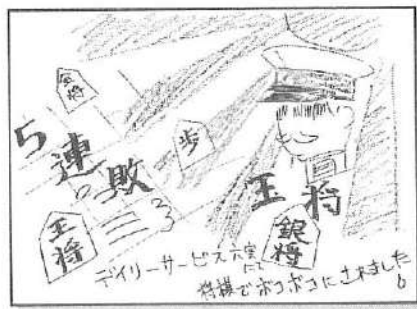
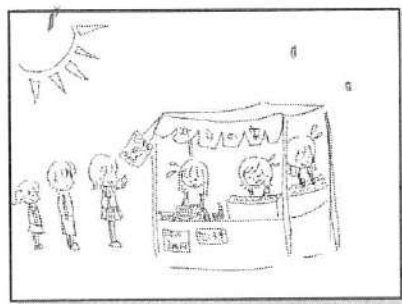
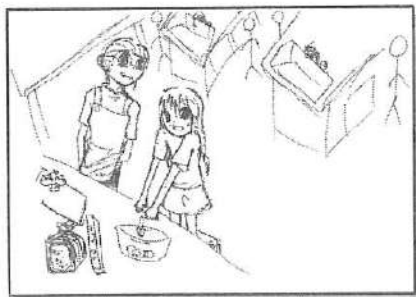
若者の社会体験プログラムを考えるフォーラム

聖徳大学  
10号館14階  
JR松戸駅から徒歩1分

## 11月25日(日)

10:00~12:00

「何かをしたい」「一歩踏み出すきっかけがほしい」と考えているワカモノを対象に、“コミュニケーション力の養成”と“NPOでのボランティア体験”を組み合わせたファシリテーター体験セミナーを実施しました。ワカモノが地域社会の中で明確な役割をもち、主体的に地域に関わっていくためにはどうすればよいか。セミナーの報告とパネルディスカッションを通してワカモノと地域のイイ関係!について考えます。



### 第1部 基調報告

「NPOでつけるコミュニケーション力」

ファシリテーター体験セミナー」実施報告

□■報告者■□

●犬塚裕雅 氏

(“NPOでつけるコミュニケーション力”  
ファシリテーター体験セミナー副実行委員長)

### 第2部 パネルディスカッション

「ワカモノと地域をつなぐプログラムとは？」

□■パネリスト■□

●海老名みさ子 氏

(NPO法人 外国人の子どものための勉強会代表)

●小野寺達也 氏

(千葉大学学生)

●庄嶋孝広 氏

(市民社会パートナーズ代表)

●齊藤ゆか 氏 コーディネーター

(聖徳大学生涯教育文化学科講師)

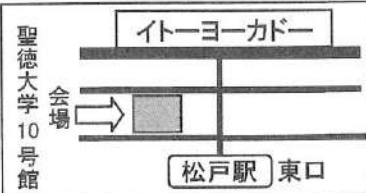
主催 “NPOでつけるコミュニケーション力”ファシリテーター体験セミナー実行委員会

共催・お問合せ まつど市民活動サポートセンター TEL 047-365-5522 FAX 047-365-5636

協力 聖徳大学生涯学習研究所・松戸市

本事業は文部科学省「青少年の意欲向上・自立支援事業」受託事業です。

イラスト提供 左4つ:まつど市民活動サポートセンター「Let's 体験 2007」ボランティア絵はがき  
右:ふわふわ。り





## 目次

1. 事業の背景
2. 事業の概要
3. セミナー実施結果
4. 調査から見てきたこと

## 1. 事業の背景

### 事業の背景 —わたしたちの問題意識—

- 若者の「生きること」「働くこと」に対する意欲の低下

**課題**

社会体験が不十分  
→コミュニケーション力不足  
• 人間関係をうまく築けない

### 事業の背景② —Let's体験!!の取り組みから—

- Let's体験!! まつど市民活動サポートセンター  
(中学～大学生対象の夏休みボランティア体験プログラム)

オリエンテーション  
(ワークショップ)

NPO・市民活動団体での  
ボランティア体験

ふりかえりの会  
(ワークショップ)

ファシリテーターをつとめた学生  
→Let's体験!!終了後も活動を継続する傾向

- コミュニケーションに自信をもつこと
- 地域のなかで自分の役割を実感すること

### 事業の背景③ —プログラムの組み立て—

ファシリテーター養成講座

+

Let's体験!!2007

Oh! Ah!

||

意欲!

コミュニケーション力  
UP

ファシリテーター体験、  
ボランティア体験による  
社会参加

が、薄くかどうか  
調査しました。

## 2. 事業の概要

## 実行委員会の構成

- ・ 福留強 実行委員長 (聖徳大学生涯学習研究所所長)
- ・ 犬塚裕雅 副実行委員長 (NPO法人CoCoT理事)
- ・ 海老名みさ子 (NPO法人外国人の子どものための勉強会理事長)
- ・ 大越章正 (千葉県教育庁東葛飾教育事務所社会教育主事)
- ・ 小能浩典 (NPO法人こぼていー子ども参画イニシアティブ理事長)
- ・ 齊藤ゆか (聖徳大学生涯教育文化学科講師)
- ・ 下山浩一 (NPO法人コミュニティアート・ふなばし理事長)
- ・ 高瀬義彰 (松戸市教育委員会青少年会館社会教育主事)
- ・ 津久井隆信 (松戸市協働推進課)

事務局 NPO法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク (CoCoT)  
(まつど市民活動サポートセンター指定管理者)

## セミナーの流れ

- 7/1(日) ● ファシリテーター養成講座 第1回
- 7/8(日) ● ファシリテーター養成講座 第2回
- 7/14(日) ● Let's体験!! オリエンテーション
- 7月～8月 Let's体験!! ボランティア体験活動
- 8/25(日) ● Let's体験!! ふりかえりの会
- 9/30(日) ● ファシリテーター体験セミナー ふりかえりの会

## 調査概要

- ・ 調査期間 2007年7月～9月
- ・ 調査対象 セミナー受講者20名中7名(高校生～大学生)  
調査対象学生受入れ団体
- ・ 調査方法 アンケート、ヒアリング等
- ・ 調査主体 ファシリテーター体験セミナー実行委員会

## データの収集

- 7/1(日) ● ファシリテーター養成講座 第1回
  - 7/8(日) ● ファシリテーター養成講座 第2回
  - 7/14(日) ● Let's体験!! オリエンテーション
  - 7月～8月 Let's体験!! ボランティア体験活動
  - 8/25(日) ● Let's体験!! ふりかえりの会
  - 9/30(日) ● ファシリテーター体験セミナー ふりかえりの会
  - 10/21(日) ● ファシリテーター体験セミナー 受入れ団体ふりかえりの会
- アンケート
- 反省会
- 反省会
- 個別ヒアリング・レポート
- ワークショップ

## 3. セミナーの実施結果

- ① ファシリテーター養成講座
- ② Let's体験2007!!オリエンテーション
- ③ Let's体験2007!!ボランティア体験活動
- ④ Let's体験2007!!ふりかえりの会
- ⑤ セミナー全体のふりかえりの会

### ①ファシリテーター養成講座

7月1日・8日(日)10:00~17:00  
 講師: 庄嶋孝広(市民社会パートナーズ代表)  
 受講者数: 20名

1日目	コミュニケーションとファシリテーションを知るゲーム この指とまれ~ジェスチャーで自己紹介~私はだあれ?~お互いを知ろう~相づち上手~引き出し上手・まとめ上手 「ボランティアって何だろう?」をテーマにファシリテーション体験 話を書きとる~絵を書く、ポストイットトーク~寸劇づくり
2日目	寸劇づくり(続き) Let's体験2007オリエンテーションのアイスブレイク・プログラムをつくる グループで企画する~グループの企画を評価する、全体で企画をまとめる~リハーサルする

体験学習で  
コミュニケーションのポイントを学ぶ

### ファシリテーター養成講座の様子

### 受講者のつくったアイスブレイク・プログラム

- 初対面同士のコミュニケーションを重視
- それぞれ目的を持ったプログラム

人数把握	人数把握の方法をグループ内で話し合う。人数が多いグループは、グループをさらに細かく分け、人数を把握する。
グループ編成	人数が多いグループは、グループをさらに細かく分け、人数を把握する。
交流	人数が多いグループは、グループをさらに細かく分け、人数を把握する。

### ②Let's体験!!2007オリエンテーション —ファシリテーションの実践 I—

7月14日(土)10:00~15:30  
 講師: 菅博嗣(有限会社あいランドスケープ研究所)  
 参加者数: 151名 セミナー受講者: 12名

アイスブレイク	※時間の都合により一部未実施
自分を表現する	A4の白紙(色紙)を自由に使って自分を表現 グループ内で発表~発表者へ1人1つ質問 残りの時間で質問に答える
ボランティア絵日記	絵日記作成 グループ内でまわし読み~3人に素敵ふせん紙を貼る 感動の付箋紙による投票~ピカイチ絵日記選出

### Let's体験!!2007オリエンテーションの様子

### ③Let's体験!!2007 —ボランティア体験活動—

(活動例)

団体名	馬橋ケアハウスなでしこ デイサービスなでしこ
活動内容	・入浴後のドライヤー掛け ・お話し相手 ・ラジオ体操 ・お手ふき、おやつ分配 ・レクリエーション(手芸)

### ③Let's体験!!2007 —ボランティア体験活動—

(活動例)

団体名	NPO法人こばてい—子ども参画イニシアティブ
活動内容	「あそぼう会」 ・小学生と一緒に思いきり遊ぶ ・ゲームの説明など



活動の様子  
(こばてい)



### ④Let's体験!!2007ふりかえりの会 —ファシリテーションの実践Ⅱ—

8月25日(土) 10:00~12:00  
参加者数:42名 セミナー受講者:8名

体験の発表	各自のボランティア体験を話し合う。
この体験を誰に伝える?	ボランティアの体験を伝えるとしたら、誰に伝えるか。理由もふくめて考える。
ボランティア絵葉書	上記で考えた相手にむけて絵葉書を作成。
グループに命名しよう	みんなの絵葉書を読んでグループに名前をつける。



Let's体験!!2007  
ふりかえりの会の様子



### ④セミナー全体のふりかえりの会

9月30日(土) 10:00~12:00  
セミナー受講者:8名

- ・ ボランティア体験をお互いにインタビュー
- ・ NPO・市民活動団体の人達についてどのように感じたか
- ・ NPO・市民活動団体の人達はなぜそれぞれの活動をしているか?

### 4. 調査から見えてきたこと

ファシリテーター養成講座では、

コミュニケーションのしくみ、ポイントを学ぶ

(具体例)

- ・ (講座で印象に残っているのは) あいづちをうつゲーム。単純にうなずかれないのがこんなに辛いとは感じた。
- ・ 初対面の人同士だったので、意見を引き出すのが難しかった。
- ・ 自分は一度こうだときめたらなかなか他の考え方ができないので、いろいろな意見がでてきて「なるほど」と思った。
- ・ ファシリテーターは、自分から笑顔で雰囲気づくりをするのが大切だと思った。

Let's体験!!オリエンテーション・ふりかえりの会では、

与えられた役割(ファシリテーター)のもと話し合いの活性化のため試行錯誤

(具体例)

- ・ ファシリテーターとして、話を均等にふることで、参加者が話しやすい質問をすることを心がけた。うなずいて聞くとか、笑顔でいるとか、基本的なことはちゃんとやろうと思った。
- ・ 絵を描くときに、どう言うか。自分がかくのに四苦八苦した。やりながら考えてると「あー、こんな絵はやばいー」って思ってた。でも参加者もそう感じてるはずなので、それを恥を捨てて見せることで、引き出そうとした。
- ・ まず、自分は笑顔で話しかける。相手に接しやすいうように、なるべく笑顔。
- ・ 恥ずかしがらずにみんなが意見をだしやすい雰囲気になるよう笑顔でいるようがんばった。

Let's体験!!ボランティア体験では、

「コミュニケーション」の視点から、自己の役割について考える。

(具体例)

- ・ 子どもに「また次来るんだよね。……」と言われ、多少はなじめたのかなと。……最初はやっぱりなじめない。自分以外は知り合いと考えると、まったく知らない人たちが集まったところにいるので。
- ・ いまこれやってるからこう動くというように考えて動くようになった。……自分がLet's体験という事業のプロセスを理解していることで、自分の立場を明確にできた。
- ・ なるべく子どもと同じ目線になるようにひざ立ちとかをした。
- ・ デイサービスは、会話が主体になって、ボギャブラリーが少ないことを感じた。打ち解ければ、話ができた。会話をつなぐ技術、あいづちが必要。無意識のうちに使っていた。
- ・ 障がいのある人を受け入れるのは難しい。よだれがついたらいやだと思った。

さらに、

地域の課題に対して自分が取り組めることに気付く

(具体例)

- ・ 身近なところにボランティア団体や障害をもった子がいることに気づいた。
- ・ どういうボランティアを自分の地域でするんだろう?と関心をもった。
- ・ (森林保全の活動は) 森を守るだけではなく、周り、そこに住んでいる人のことも考えないと、と知った。
- ・ 松戸市にこれだけの団体があって、いろいろな活動があることを知った。こぼていのはちみつ選挙には参加してみたかった。障害、夜中、いじめなどにも興味を持った。
- ・ いろんな年齢の人に対応したい。話のストックが大事。高齢者の方に接するボランティアを学びたい。もっと、視野が広がって、リスク・施設に目を配れるようにしたい。

セミナー全体のふりかえりの会では、

セミナーでの経験をふりかえり、地域のNPO・市民活動について理解を深める

(具体例)

- ・ (保育所の先生たちは) 子どもがすきという思いもあると思うが、実はもっと深いことを考えているんじゃないか。少子高齢化社会や子どもが住みやすい国ということについて……。
- ・ 障害をもっているからこそ、(団体の人は) いけないことをしたらちゃんと怒っていた。病氣対策、健康状態にまで気を配っていた。
- ・ ボランティア団体をやっているうちに、「そうしなければならぬ」というような職務感が生まれてきたのではないかな。

調査から見えてきたこと

コミュニケーションのしくみ、ポイントを学ぶ

与えられた役割(ファシリテーター)のもと話し合いの活性化のため試行錯誤

「コミュニケーション」の視点から、自己の役割について考える。

地域の課題に対して自分が取り組めることに気付く

セミナーでの経験をふりかえり、地域のNPO・市民活動について理解を深める



参考

## ボランティア受入れ団体の 意見から……

- 学生は知的障害者や自閉症の子らと接することによって「喜ばれること」の喜びや、役割を達成する充実感を得ているようだ。
- (団体では) ボランティアにきた若者の、年齢や特技を見て役割を配分する。
- (過去の受入れ事例では) 夏のボランティア体験をきっかけに、活動を継続してくれている例もある。

(10月21日「受け入れ団体ふりかえりの会」での意見から)

31

コミュニケーションと社会体験プログラムの効果



地域とワカモノの連携しとなるプログラムにしていこう

## 受講者レポート2

このレポートは、受講者のDさんが、彼の通う大学の授業で提出したものである。本人の許可を得て掲載する。三段落目以降がファシリテーター体験セミナーに関する記述である。

### はじめに

私は大学に入学してから、ボランティア実習を受講したことをきっかけにボランティア活動にかかわるようになりました。そして、携わった活動から様々なことを学びました。それによって私は、私生活と大学生活におけるこれからの課題を見つけました。課題の発見に至る経緯には、ボランティア実習の過程で私の中に生じたいくつかの変化がありました。

### 「双方向的な利益」への気づき（トライアングル西千葉での活動にて）

まず一つ目の変化は、ボランティアに対するイメージの変化でした。そしてそれは、トライアングル西千葉での視覚障害者の補助の時にありました。私は、初めてのボランティア活動に緊張していた上に、視覚障害者の補助の方法をよく知らなかったので、補助に手間取ってしまいました。しかし、私が担当した方は嫌な顔を見せることなく、補助の方法について色々と教えて下さりました。そして最後には、笑顔でお礼を言ってくれました。私はその日の活動で、色々なことを学べたという充実感と、お礼を言われたことへの喜びを感じました。そのことから私は、ボランティアでは誰かを助ける側と助けられる側の両方が得をすると思うようになりました。これは、ボランティアをする前は、ボランティアは一方的な奉仕であると考えていた私にとって、大きな変化でした。

### 「楽しくなければ続かない」ということ（溜の上レディースの活動にて）

次の変化は、Let's 体験のボランティア活動で溜の上レディースにお世話になった時にありました。活動内容が森の整備だったので私は、気合を入れてまじめに取り組もうと意気込んでいました。環境を守ることを目的とする団体であれば、色々と厳しく、環境を最優先に考えて活動しているのだろうという先入観があったのもその理由の一つでした。しかし、実際に一緒に活動してみると、私の想像とは全く違っていました。溜の上レディースの方々はや作業中終始笑顔で、楽しそうにしていました。その点だけでも私は驚いたのですが、活動内容には更に驚きました。なぜなら、活動にあたって環境だけでなく、近隣の住民に対する配慮が十分になされていたからです。この「必ずしも環境最優先ではない」という姿勢に驚きながらも、そこから私は周辺の人々（地域）に迷惑をかけないように配慮しなければ環境保全の活動を続けられなくなるという大切なことに気づきました。そしてまた、楽しんで活動している理由として、「楽しくなければ続かない」ということを挙げたことにも驚きました。「ボランティア」と「楽しい」ということが結びついていなかった私にとって、これに気付いたこともまた、一つの変化でした。

### 多面的な解釈（ファシリテーター体験セミナーとLet's 体験オリエンテーションにて）

次の変化はファシリテーター体験セミナーとLet's 体験オリエンテーションの時にありました。二つのイベントの両方で共通して、「ボランティア」という言葉が自分にとってどのような意味なのか（つまりはその人にとってのボランティアの定義）について、紙に書き

て発表するというを行いました。私は様々な世代の人の、ボランティアのイメージ（厳密に言うならば、定義）について聞き、解釈の多様性に驚きました。いろんな人が、いろんな理由や経験から、ボランティアに対してその人なりの考えを持っているということが私にとって新鮮でもありました。特に印象に残っているのは「昔は『ボランティア』なんていう言葉はなくて、皆当たり前のように人を助けていた」という言葉でした。これについては「定義」に関する話ではありませんが、この言葉は、当たり前のように行われていた「思いやり」というものが時代の変遷によって変化して「ボランティア」と呼ばれ、特別視されているのではないかと、ということ私に考えさせてくれました。このような考えに至ったことは私にとって、ボランティアについての考えを深める上で非常に有益なことでした。そしてまた、定義は一つではなく、人によって違っていることに気付いたということは、単一の定義を見つけたことに満足していた私にとっての大きな変化でした。

#### 「自分の住む地域に目を向ける」ということ（松戸のシンポジウムにて）

この項で述べるのは、「変化」というよりは「発見」です。それは一連の実習が終了した後に参加した松戸のシンポジウムの時にありました。まつど市民活動サポートセンターの小山さんのご厚意により参加させていただいたこのシンポジウムで私は、「若者と地域がどのように関わっていくことができるか？」について、他のシンポジストの方と話をさせていただくことができました。そしてその際に提示された「どうすれば継続してボランティア活動を続けてもらえるのか？」という議題について自分なりの答えをその場で考えました。私が出した答えは「日常生活の一部として楽しくできる活動内容にする」というものでした。これは「言うのは簡単で、やるのが難しい」ということは重々承知の上での答えです。したがって、必ずしも現実に沿う形の答えとは言えません。しかし、このことについて考えることができたことで、私は私生活でのこれからの課題を発見しました。それは「自分の住む地域に目を向けること」です。私は今まで松戸や千葉で活動をしましたが、自分の住んでいるところのボランティアには参加したことがありませんでした。シンポジウムでは、話し合いの過程でそのことを再認識し、新たな目標を発見することができました。

#### まとめ

このように、ボランティア実習の過程で私には変化がありました。そして私は、これからの大学生活と私生活での課題を発見しました。それは、「ボランティアの一般的定義の考案」（大学生活）と「自分の住む地域に目を向けること」（私生活）です。私はこの二つの課題を中心に考え、これからの生活に反映させようと思います。そしてこの二つの課題の発見が、私にとってのボランティア実習での最大の成果だと思います。

### 報告書作成ワーキングチームのこと

ファシリテーター体験セミナーの受講者 3 人が、セミナー終了後、この報告書の作成を手伝ってくれました。報告書の草稿を読んで、当事者の視点から疑問のある解釈、表現について、それぞれの解釈を教えてくださいました。また、この報告書が彼らの同世代の人たちも読めるよう、難しい表現について指摘してくれました。彼らの協力に対し、ここに感謝の意を表します。ありがとうございました。

ファシリテーター体験セミナー報告書作成ワーキングチーム

小野寺 達也さん 藤沢 太士さん 根本 麻理さん

平成 19 年度 文部科学省委託 青少年の意欲向上・自立支援事業

NPO・地域をフィールドとした青少年のコミュニケーション力を育む調査研究事業

‘NPO でつけるコミュニケーション力’

ファシリテーター体験セミナー調査報告書

平成 20 年 3 月発行

‘NPO でつけるコミュニケーション力’ファシリテーター体験セミナー実行委員会

<事務局>

特定非営利活動法人コミュニティ・コーディネータズ・タンク (CoCoT)

〒271-0064 松戸市上本郷 3783□5

TEL : 047-366-8909

e-mail : [contact@npo-cocot.com](mailto:contact@npo-cocot.com)

URL : <http://npo-cocot.com/>

